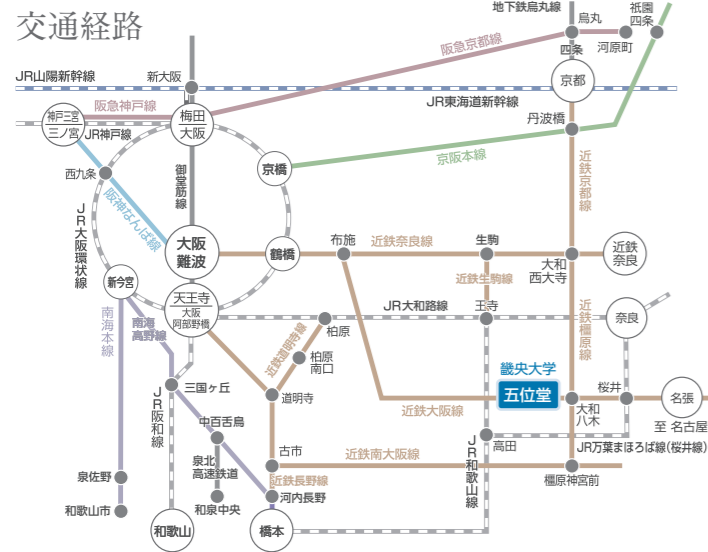


キャンパスへのアクセス

「大阪難波」「天王寺」から近鉄「五位堂」駅まで最短27分



主要な駅からのルート・最短所要時間

JR大阪	JR大阪環状線	近鉄大阪線	最短38分	五位堂駅
近鉄大阪難波	近鉄奈良線	近鉄大阪線	最短27分	
JR天王寺	JR大阪環状線	近鉄大阪線	最短27分	
近鉄大和八木	近鉄大阪線		最短7分	
JR奈良	JR和歌山線	奈良交通バス	最短54分	
近鉄奈良	近鉄奈良線	近鉄橿原線	最短46分	
京都	近鉄京都線	近鉄橿原線	最短67分	
JR三ノ宮	JR神戸線	近鉄大阪環状線	最短59分	
阪神三宮	阪神本線(阪神なんば線経由)	近鉄大阪線	最短64分	
近鉄名張	近鉄大阪線		最短38分	
JR和歌山	JR和歌山線	天王寺	最短97分	五位堂駅
		近鉄大阪線		

近鉄大阪線「五位堂」駅からのアクセス

徒歩約15分またはバス約5分



畿央大学入学センター

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2
TEL 0745-54-1603 FAX 0745-54-1600

<http://www.kio.ac.jp/>



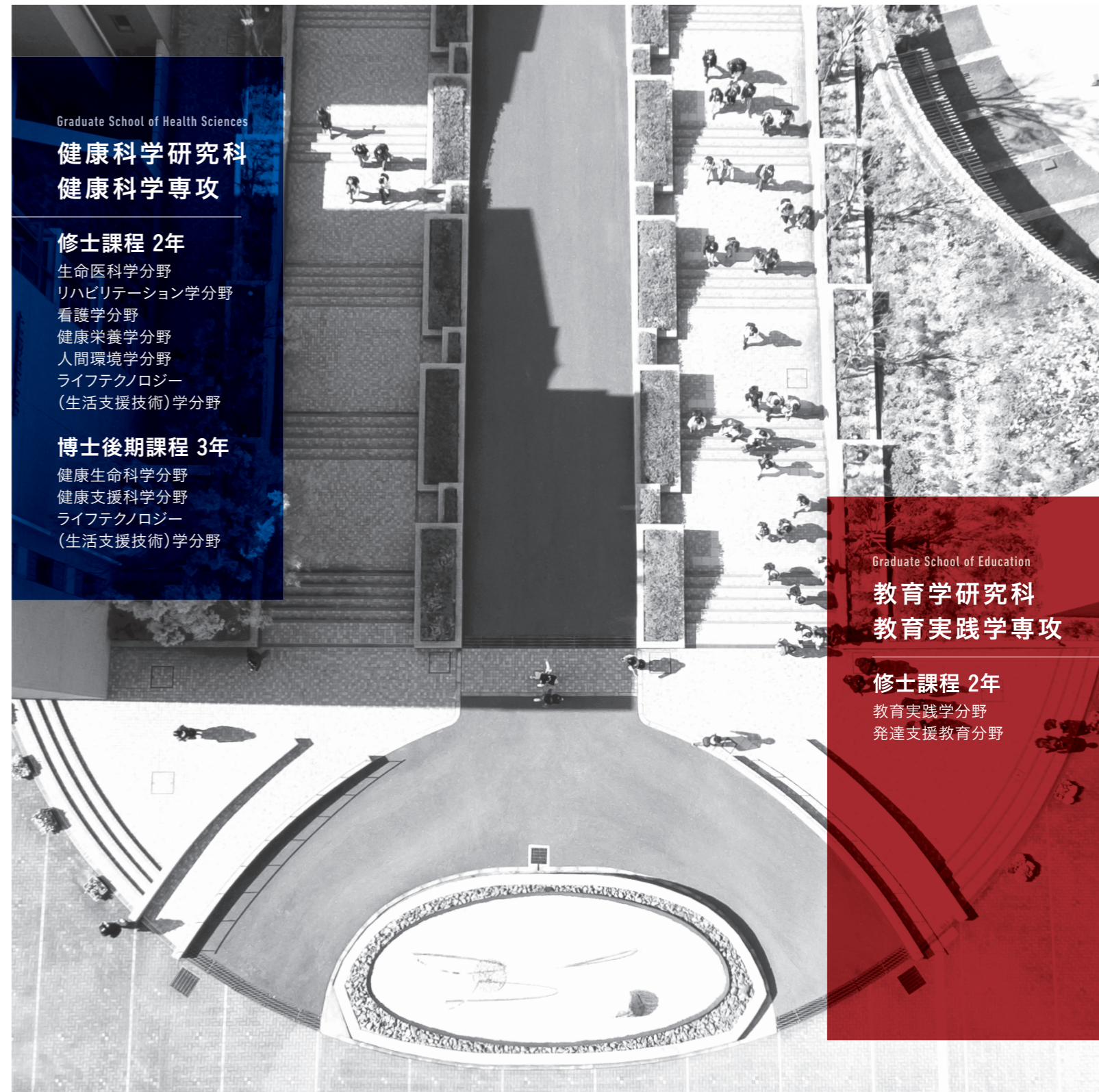
大学院/学部/専攻科/別科

- 大学院 健康科学研究科/教育学研究科
- 健康科学部 理学療法学科/看護医療学科/健康栄養学科/人間環境デザイン学科
- 教育学部 現代教育学科
- 専攻科 助産学専攻科
- 別科 臨床細胞学別科



畿央大学 大学院

2020 入学案内&募集要項



Graduate School of Health Sciences
健康科学研究科
健康科学専攻

修士課程 2年

- 生命医科学分野
- リハビリテーション学分野
- 看護学分野
- 健康栄養学分野
- 人間環境学分野
- ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野

博士後期課程 3年

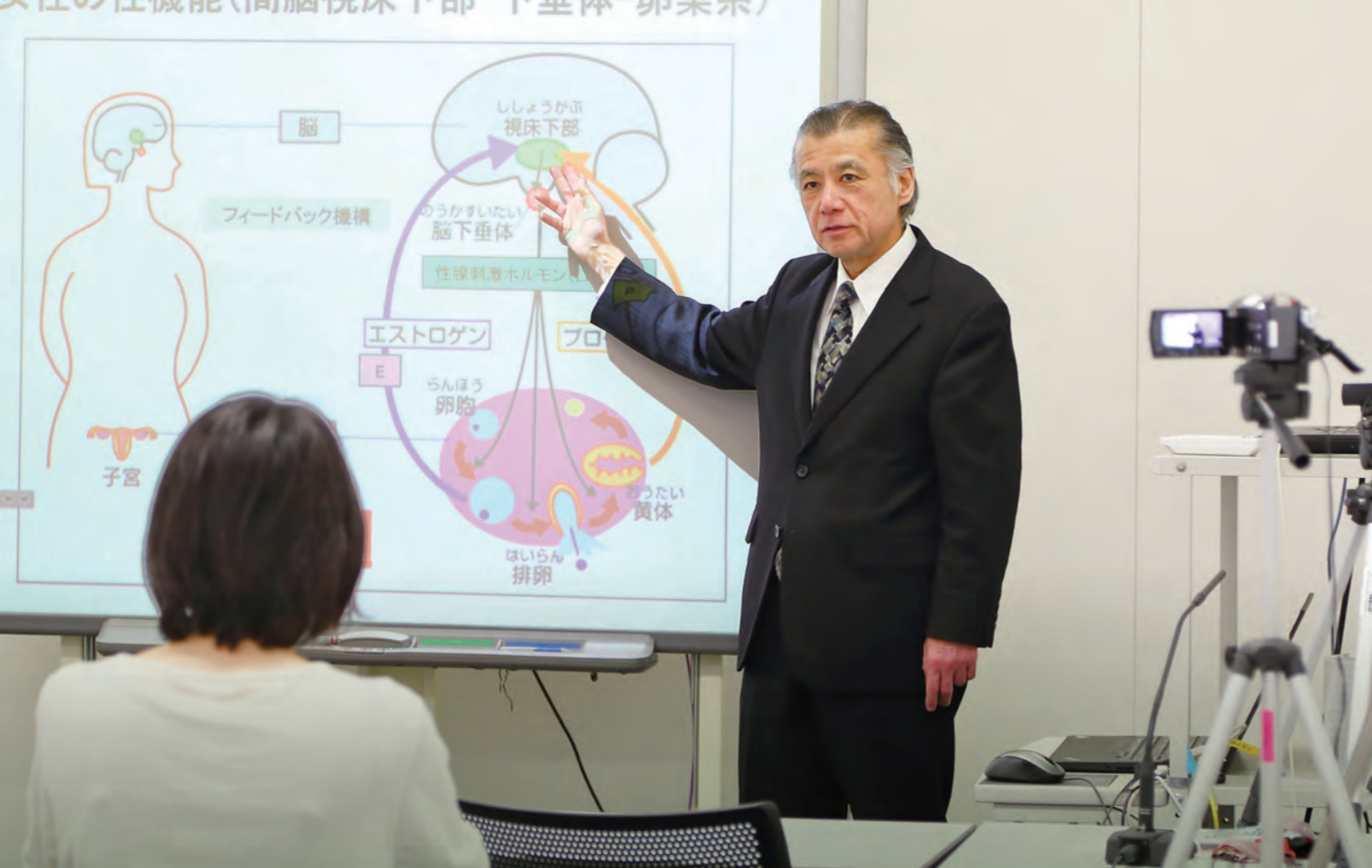
- 健康生命科学分野
- 健康支援科学分野
- ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野

Graduate School of Education

教育学研究科
教育実践学専攻

修士課程 2年

- 教育実践学分野
- 発達支援教育分野



■ 社会人に優しい時間割・研究環境

働きながら学びたいという方の希望に応えるため、授業は平日夜間(18:00~)と土曜日の他、夏季や春季に集中授業を行う時間割を設定しています。また、研究施設・設備は休日も含めて23時まで(一部は終日)利用できます。図書館は20時までですが、電子ジャーナルの閲覧等は学内のPCからいつでも利用することができます。実際に大学院生の9割以上が働きながら学んでいます。

開講科目表(時間割例) ライブ授業

健康科学研究科 修士課程(1年次前期)

	VI限	VII限
	18:00~19:30	19:40~21:10
月	○スポーツ心理学特論	
火	○健康科学特論I (脳・神経・感覚・行動)	
水	○健康科学特論II (臓器・循環・代謝・運動)	
木	○美しく生きるための健康科学総合特論 必修	○人間工学特論
金	○健康科学特論V (看護学・ヒューマンケア学等)	

土	I限	II限
	9:00~10:30	10:40~12:10
	○カウンセリング特論	○健康科学特論III (分子・栄養・遺伝子・生化学)

○共通科目 ●専門科目

※専門科目の演習・特論は、担当教員と打ち合わせの上、スケジュールを決定します。

教育学研究科 修士課程(1年次前期)

	VI限	VII限
	18:00~19:30	19:40~21:10
月		●教育実践学演習
火		
水	○教育学特論I (哲学・思想・史) 必修	
木	○美しく生きるための教育学総合特論 必修	○教育心理学特論
金	○教育学特論II(教育方法・技術)	○統計解析評価演習

土	II限	III限
	10:40~12:10	13:00~14:30
	○教育法制特論	○教育課題実践演習 必修

○専門基礎科目 ●専門科目

※研究指導を行う「演習I」及び「特別研究I」は、担当教員と打ち合わせの上、スケジュールを決定します。

■ 働きながら学べるライブ授業

ほとんどの講義はインターネットを利用して実際の講義と同じ時間帯に自宅や職場で受講することができます。先生の声や動作、教材、板書などがリアルタイムに送信されるので教室と同じ条件で受講することが可能です。さらに授業を収録したオンデマンド教材が用意されるのでいつでも復習ができます。また、Skypeを使って個別指導やグループディスカッション、発表など、遠隔の学生に対してもきめ細かな指導を行い、社会人学生の学びを保証しています。



■ 院生実習費と特別奨学金制度

大学院生一人当たり最大で修士課程は年間10~20万円、博士後期課程は年間20万円の院生実習費を担当教員の指導のもと研究活動に使用することができます。また、奨学金制度が成績優秀な学生を応援するために設けられており、年間30~37.5万円が給付されます。(P.21参照)

■ 教育訓練給付金指定講座

健康科学研究科の修士課程、博士後期課程および教育学研究科の修士課程は教育訓練給付金指定講座です。これは働く社会人の能力開発を目的とした雇用保険からの給付制度で、指定講座を修了し、申請を行なった方に対して10万円を上限として支給されるものです。詳しくは学生支援センターまでお問い合わせください。

■ 2年間の学費で最大4年の長期履修学生制度(修士課程)

修士課程では長期履修学生制度を利用して、2年間の学費で履修年限を最大2年間延長することができます。仕事や家庭の都合で2年間での修了が難しい場合、また新たに教員免許取得を希望する場合は長期履修学生制度を利用することができます。履修期間が3年間あるいは4年間の場合でも、学費総額は変わらず年数に応じて分割して支払います。入学後の計画変更も可能です。(P.22参照)

畿央大学大学院が求める学生像(アドミッションポリシー)

畿央大学大学院では健康科学もしくは教育学の各分野における高度な知識、技術等を一体的に修得し、他の専門職や関係者と連携する能力を備えて、課題解決への指導的役割を果たすことができる能力を身につけることを目標としています。教育方法として、当該分野において活躍している社会人を大学院の学生として受け入れ教育を行うために、インターネットによる授業の配信や夜間開講を行っています。求める人材は以下の通りです。

1. 自ら課題を設定して探求するための十分な基礎学力を備えており、専門分野で積極的な研究を行う意欲をもった者
2. 高度な実践力をもった専門的職業人として、自律的に社会に貢献したいという態度を有している者
3. 専門領域の内容について、学士課程卒業相当(博士後期課程では修士課程修了相当)の知識及び研究方法を身につけている者

研究科・課程毎の求める人材は以下の通りです。

健康科学研究科 修士課程

- 健康科学分野の活動において指導力を発揮するために、論理的思考評価、企画能力、表現能力をみがこうとする者
- 高度専門職業人、教育研究者として健康科学の実践の発展に貢献する意欲のある者
- 人々の尊敬と健康が保障される社会をつくるために倫理的な判断と行動ができる者

健康科学研究科 博士後期課程

- 健康科学分野にかかわる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な学術課題を考究することのできる者
- 課程修了後は新たな学際的研究分野を開拓し、新しい学問を構築している高い能力と意思を持つ者

教育学研究科 修士課程

- 教育に携わることへの使命感と熱意を持ち、学部教育の上にも、さらに実践的指導力を身につけることをめざす者
- 経験に裏付けられた理論的知識と実践的知識を省察し、さらに高度な専門的能力、資質を探究しようとする者
- 学校・地域社会との連携のもと、教育をめぐる教科や発達・学習に関する現代的諸課題について、論理的に考察しようとする者

INDEX

健康科学研究科 健康科学専攻

修士課程 2年	03
生命医科学分野	05
リハビリテーション学分野	
看護学分野	
健康栄養学分野	
人間環境学分野	
ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野	

博士後期課程 3年

健康生命科学分野	07
健康支援科学分野	
ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野	
教員プロフィール	09

教育学研究科 教育実践学専攻

修士課程 2年	13
教育実践学分野	15
発達支援教育分野	
教員プロフィール	17

募集要項

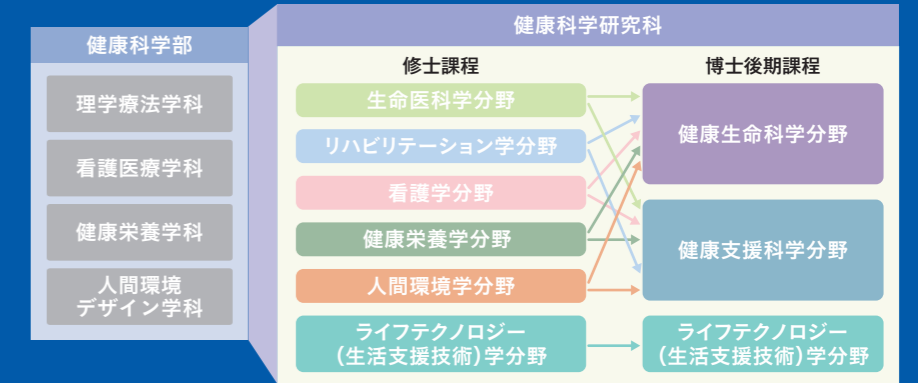
入学までの流れ/入学資格審査	18
修士課程募集要項	19
博士後期課程募集要項	20
出願共通事項	21
Q&A	22

畿央大学大学院で 仕事と研究を 両立。



心豊かで健やかな人間生活を 追究する総合的取り組み

WHO(世界保健機構)は「健康とは単に病気でない、虚弱でないというだけでなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも健全な状態であること」と定義しています。つまり健康は医療だけでは実現せず、精神的な健康と、衣・食・住に代表される生活環境が整備されて初めて成立するものです。健康科学研究科の修士課程では生命医科学、リハビリテーション学、看護学、健康栄養学、人間環境学、ライフテクノロジー(生活支援技術)学の6つの分野から健康を追究します。また、博士後期課程においてはその6分野を一度合体させ、人間の健康維持・増進に必要な生体機能を研究する「健康生命科学分野」、人間の健康維持・増進を最も効果的に支援できる方法を研究する「健康支援科学分野」と生活の質向上のための使い勝手の良い技術を研究する「ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野」をおき、健康に関する最先端から応用までの幅広い研究を行います。これらは全国の大学院でも初めての試みで、よりよい生活の質(QOL)の実現に貢献します。



健康科学研究科

健康科学専攻



健康科学研究科長
植田 政嗣

大阪大学招聘教授
日本臨床細胞学会会長、
日本婦人科がん検診学会会長、
日本ヒト細胞学会会長を歴任

健康科学分野のリーダーを養成

世界に発信する独創的な研究を

畿央大学大学院健康科学研究科は、生命医科学、リハビリテーション、看護、健康栄養、人間環境、ライフテクノロジー(生活支援技術)を専門分野とする大学卒業生や、すでに資格を得てその分野で活躍している方々がより高い目標に向かって学修し、研究を行うことを目的に12年前に設置されました。本研究科修士課程ではこれらの職場でリーダーとなり、やがては後輩の指導に当たることができる人々を育てようとしています。また、実務を経験して自分の持っている知識に不足を感じている方たち、新たな疑問を感じてその解決に取り組もうとしている方々も対象になります。さらに健康科学分野で高いレベルの研究を志す方を対象に博士後期課程が設置されています。既に227名の修士と27名の博士(健康科学)を世に送り出すことができました。博士論文は国際学術雑誌に掲載され、高く評価されたものです。長期的な研究テーマに取り組むための環境も整い、活発な研究活動が展開されています。教員は研究指導に十分な資質を有しているだけでなく、自らも熱心に研究に取り組み、世界レベルの成果をあげています。人間の健康増進を科学する健康科学という新しい学問領域の開拓をめざし畿央大学大学院は発展しつつあります。優れた教育研究環境を自己研鑽の場に役立ててください。

特別研究指導教員一覧

○…主担当可能

分野		氏名・職位	参照P	分野		氏名・職位	参照P	
修士課程	生命医科学分野	生命医科学	植田 政嗣 ○ 教授 P09	看護学分野	看護関連科学	堀江 尚子 ○ 准教授 P11	P11	
			金内 雅夫 ○ 教授 P09			文 鐘聲 ○ 准教授 P11	P11	
			前原 佳代子 ○ 教授 P09		看護実践学	松本 泉美 ○ 教授 P11	P11	
			乾 富士男 ○ 准教授 P09			山崎 尚美 ○ 教授 P11	P11	
			祐貴 泰子 ○ 講師 P09			山本 裕子 ○ 教授 P11	P11	
	リハビリテーション学分野	神経 リハビリテーション学	森岡 周 ○ 教授 P09		健康栄養学分野	食品機能科学	小西 洋太郎 ○ 教授 P11	P11
			松尾 篤 ○ 教授 P09				栢野 新市 ○ 教授 P11	P11
		運動制御・運動障害学	信迫 悟志 ○ 准教授 P09		味覚と食嗜好の科学	山本 隆 ○ 教授 P11	P11	
			岡田 洋平 ○ 准教授 P09			上地 加寿子 教授 P11	P11	
		疼痛 リハビリテーション学	冷水 誠 ○ 准教授 P09		米田 武志 准教授 P12	運動・栄養生理学	永澤 健 ○ 教授 P12	P12
			大住 倫弘 ○ 准教授 P09		食品栄養科学		村木 悦子 ○ 准教授 P12	P12
		呼吸 リハビリテーション学	田平 一行 ○ 教授 P10			人間環境学分野	環境デザイン学	三井田 康記 ○ 教授 P12
			宮本 直美 助教 P10		東 実千代 ○ 教授 P12			P12
物理医学系リハビリテーション学	庄本 康治 ○ 教授 P10		藤井 豊史 ○ 教授 P12	P12				
地域系リハビリテーション学	高取 克彦 ○ 教授 P10	西山 紀子 教授 P12	P12					
運動器 リハビリテーション学	今北 英高 ○ 教授 P10	李 沅貞 ○ 准教授 P12	P12					
	峯松 亮 ○ 教授 P10	清水 裕子 ○ 助教 P12	P12					
	瓜谷 大輔 ○ 准教授 P10							
看護学分野	看護関連科学	河野 由美 ○ 教授 P10	ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野	次世代型生活支援技術学	冬木 正紀 ○ 准教授 P12	P12		
		秋山 明子 ○ 教授 P11						

博士後期課程	健康生命科学分野	生体機能科学	植田 政嗣 ○ 教授 P09	健康支援科学分野	健康 リハビリテーション科学	松尾 篤 教授 P09	P09
			金内 雅夫 ○ 教授 P09			岡田 洋平 ○ 准教授 P09	P10
			永澤 健 ○ 教授 P12			瓜谷 大輔 准教授 P10	P10
			前原 佳代子 ○ 教授 P09			大住 倫弘 准教授 P09	P09
			山本 隆 ○ 教授 P11			信迫 悟志 准教授 P09	P09
	乾 富士男 ○ 准教授 P09	冷水 誠 准教授 P09	P09				
	健康支援科学分野	健康 リハビリテーション科学	森岡 周 ○ 教授 P09		前岡 浩 准教授 P10	P10	
			今北 英高 ○ 教授 P10		小西 洋太郎 ○ 教授 P11	P11	
			庄本 康治 ○ 教授 P10		東 実千代 教授 P12	P12	
			田平 一行 ○ 教授 P10		栢野 新市 教授 P11	P11	
峯松 亮 ○ 教授 P10							
		高取 克彦 教授 P10	ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野	次世代型生活支援技術学	冬木 正紀 ○ 准教授 P12	P12	

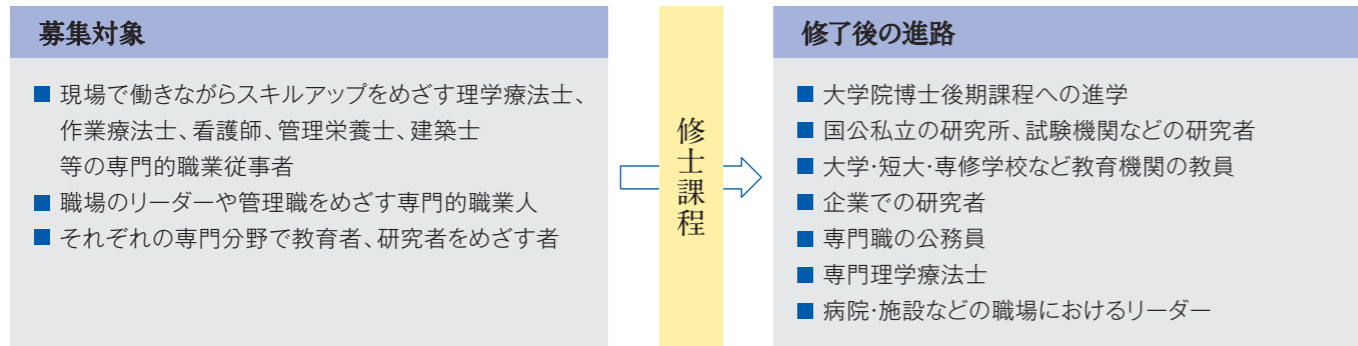
健康科学研究科 健康科学専攻

修士課程

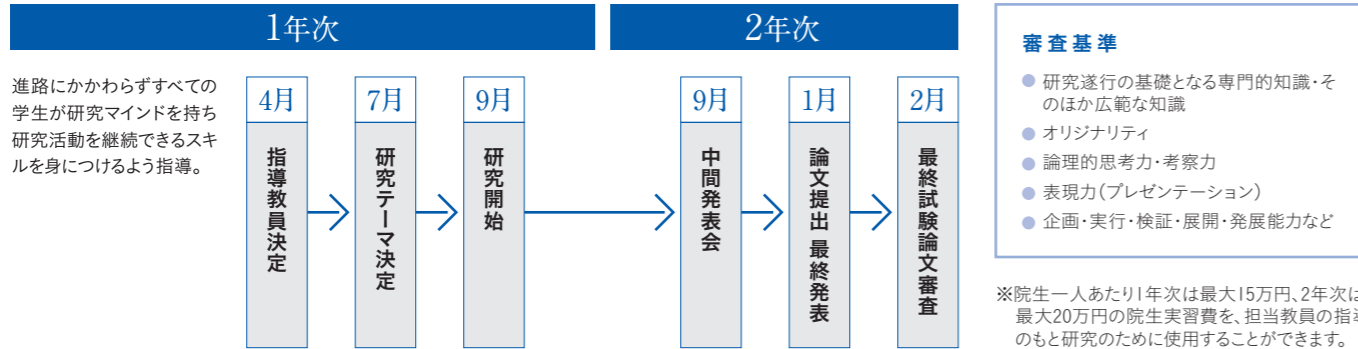
2年

取得できる学位 >> 健康科学研究科修士課程 修士(健康科学) (Master of Health Science)

よりハイレベルな専門職業人をめざす



論文作成の流れ



履修モデル

	共通科目	単位	専門科目	単位	合計	学位論文
1年次	美しく生きるための健康科学総合特論 必修	2	神経リハビリテーション学特論	2	16	研究テーマの決定 ↓ 基礎資料・データの収集・分析
	健康科学特論I(脳・神経・感覚・行動)	2				
	健康科学特論III(分子・栄養・遺伝子・生化学)	2				
	スポーツ心理学特論	2	神経リハビリテーション学演習	4		
	統計解析評価特論	2				
後期	先端バイオサイエンス技術特論	2	—	4		
	健康科学特論IV(認知・学習・記憶・発達)	2				
2年次	—	—	特別研究 必修	10	10	研究テーマに基づく研究・実験と学位論文の作成
	—	—				
合計	14(14)		16(16)		30	

※ 単位の欄の()内の数字は修了要件の単位数

開設科目一覧

科目名	単位	修了要件
美しく生きるための健康科学総合特論 必修	2	7科目14単位
健康科学特論I(脳・神経・感覚・行動) 特色ある科目	2	
健康科学特論II(臓器・循環・代謝・運動)	2	
健康科学特論III(分子・栄養・遺伝子・生化学)	2	
健康科学特論IV(認知・学習・記憶・発達)	2	
健康科学特論V(看護学・ヒューマンケア学等)	2	
先端バイオサイエンス技術特論 特色ある科目	2	
共通科目		
健康増進医学特論	2	
臨床・社会調査研究法特論	2	
統計解析評価特論	2	
スポーツ心理学特論	2	
ケアリング特論	2	
カウンセリング特論	2	
専門職教育方法特論	2	
高齢社会科学特論	2	
人間工学特論	2	
環境科学特論	2	

科目区分	科目名	単位・修了要件	
生命医科学分野	生命医科学特論・演習	特論2単位 + 演習4単位 (※6単位)	
	神経リハビリテーション学特論・演習(認知・行動/社会・コミュニケーション/発達・高次機能系)		
	運動制御・運動障害学特論・演習(運動制御/心理・学習系)		
	疼痛リハビリテーション学特論・演習(基礎/臨床系)		
	呼吸リハビリテーション学特論・演習		
	物理医学系リハビリテーション学特論・演習		
	地域系リハビリテーション学特論・演習		
	運動器リハビリテーション学特論・演習(筋・神経・Fascia/骨・関節/臨床/スポーツ系)		
	看護学分野		看護関連科学特論・演習(看護心理学/看護学・公衆衛生看護学/疫学・公衆衛生学)
	看護実践学特論・演習(高齢者看護学/療養支援看護学/地域ヘルスプロモーション科学/健康発達支援看護学)		
健康栄養学分野	食品機能科学特論・演習	特論2単位 + 演習4単位 (※6単位)	
	味覚と嗜好の科学特論・演習		
	運動・栄養生理学特論・演習		
人間環境学分野	食品栄養科学特論・演習	特論2単位 + 演習4単位 (※6単位)	
	環境デザイン学特論・演習		
ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野	インターンシップA(学内)*	特論2単位 + 演習4単位 (※6単位)	
	インターンシップB(学外)*		
分野共通	次世代型生活支援技術学特論・演習	特別研究 必修	
			特別研究の論文審査及び最終試験合格で10単位

※インターンシップAもしくはBいずれかの単位を取得し、本研究科を修了することで、一級建築士登録資格に必要な実務経験2年のうちの1年とみなされます。

修了要件および履修方法



共通科目から14単位以上、専門科目から16単位以上を修得し、本大学院が行う修士の論文審査および最終試験に合格することによって学位を取得することができます。

必修

美しく生きるための健康科学に取り組む

美しく生きるための健康科学総合特論

健康への関心は高まる一方、なぜ健康でありたいのかということ忘れて、「健康な身体」自体が目標になりがちである。本研究科では健康をQOL(生活の質)に関連付け、よく生きる、美しく生きることを目標に掲げて、物質生活・精神生活・社会生活のトータルにおいて良好な状態を実現することが大切だと考える。そこで脳科学、神経科学、栄養科学、人間環境学、教育学の各分野の研究者がチームを組み、QOLの観点から健康科学を有機的・総合的に再構成し、人間にとっての理想であり目標である「美しいライフデザイン」を追究する科目を設けた。これは、心豊かで健やかな人間生活をめざす総合的取り組みを進める本研究科の特色を象徴した科目であり、必修のコア科目として位置づけるものである。

特色ある科目

健康科学特論I(脳・神経・感覚・行動)

健康の維持増進をはかる仕事に携わる者にとって、人体の仕組みや営みを知ることは最低限必要なことである。健康科学特論Iでは、「行動」、「感覚」、「脳・神経」など、人の持つ動物性機能を体系的に、かつ統合的に把握することを目的とした授業を行う。すなわち、脳神経系の動きを生体膜、イオンチャネル、輸送体など分子、細胞レベルで理解させ、さらに進めて感覚受容、言語理解などシステムとしての理解へつなげる。最終的に、人間の行動の基礎を深く理解させることをめざす。

先端バイオサイエンス技術特論

健康科学の進歩のため、さまざまな先端バイオサイエンス技術が用いられている。本特論では、どのような先端技術が存在するのか、それはどのような原理に基づいているのか、どのように応用されているかなどについて解説する。すなわち、脳神経系の動きを分子、細胞レベルで研究するための電気生理学的技術、光学イメージング技術、組織化学の技術などを解説し、学生各自の研究への応用につなげる。また、高次脳機能の研究手法としての各種イメージング技術の原理とその応用についても解説する。

院生メッセージ

Graduate Student



島岡 昌代さん
健康科学研究科修士課程在籍

子育てをしながら
老年看護を実践的に研究

元看護師の経験をベースに、さらに専門性を深めようと大学院で老年看護学を専攻。厚労省の認知症施策推進総合戦略で介護者の支援政策となっている「認知症カフェ」の運営について子育てをしながら研究しています。全国規模で実態調査をすることで運営課題が論理的に掴めるようになり、それを踏まえて理想的な運営モデルの構築をめざしています。今後、認知症高齢者のケアにかかわる方々をフォローしていきたいです。

健康科学研究科 健康科学専攻

博士後期課程

3年

取得できる学位 >> 健康科学研究科博士後期課程 博士(健康科学) (Doctor of Philosophy in Health Science)

健康科学分野における様々な学術課題を考究する

健康生命科学分野

人体の構造や機能が、摂取する食物などの栄養素や、日常生活に伴う運動・行動および生活環境によってどのように影響を受けるかを研究対象とし、基礎医学的な方法により研究を行います。将来的には研究者、教育者の育成をめざします。

健康支援科学分野

人間の健康維持・増進を最も効果的に支援できる方法を明らかにするため、新しい理学療法や、食、住環境の今後のあり方を求めて研究を行います。優れた研究能力を持ち高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成をめざします。

ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野

生活の質的向上のための使い勝手の良い技術が次世代型生活支援技術です。ロボット、生体工学、AI応用等を包含した分野で主体的に健康を維持・促進し、生活するための技術の研究開発を進める人材の育成をめざします。

募集対象

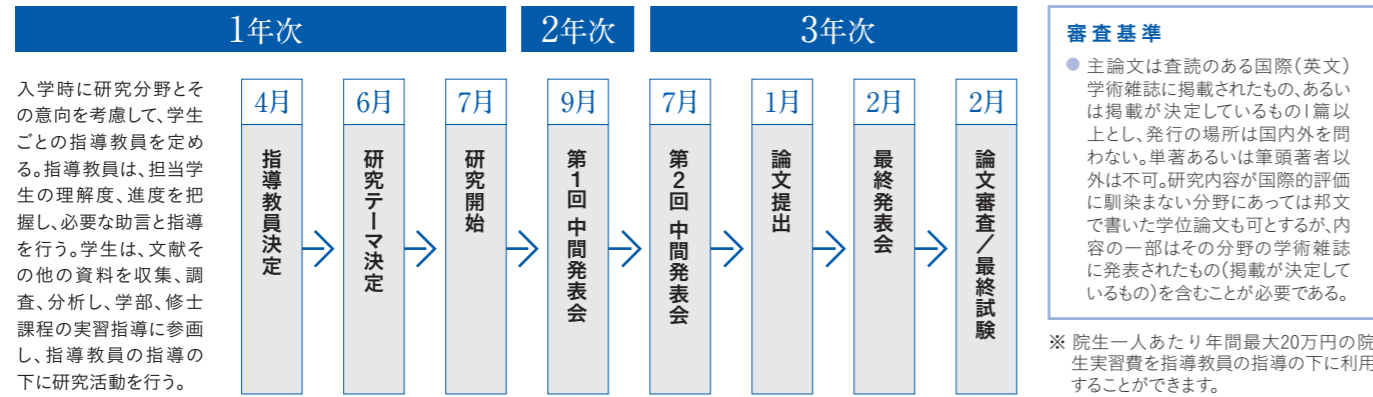
- 高度専門職業人、教育研究者として健康科学の実践の発展に貢献する意欲のある者
- 健康科学分野の活動において指導力を発揮するために、論理的思考評価、企画能力、表現能力をみがこうとする者
- 人々の尊厳と健康が保障される社会をつくるために倫理的な判断と行動ができる者
- 新たな学際的研究分野を開拓し、新しい学問を構築していける高い能力と意思を持つ者

博士後期課程

修了後の進路

- 創造性豊かな優れた研究・開発に自立して取り組むことのできる研究者
- 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた高等教育機関の教育研究者
- 課題解決型の研究に取り組む、高度かつ指導的役割を果たすことができる専門的業務従事者

論文作成の流れ



院生メッセージ

Graduate Student



臨床の経験と現場目線を活かし、姿勢と疾患の関係に着目したテーマを研究

病院で働く中、臨床経験を活かし、リハビリの研究を進めたいと考え、理学療法学科を卒業した母校である畿央大学の大学院へ。現在は、立った状態の姿勢の分類を軸に、「立位姿勢制御の特徴分類」というテーマで様々な疾患との関係性を探っています。職場の病院も参加する共同研究のため、研究者としてだけでなく、現場スタッフの目線を活かせることも大きなやりがい。働きながらなので、授業に出席できない日もありますが、オンデマンドで講義の視聴や内容の見直しができるため、非常に助かっています。私以外にも働きながら研究を進めている方が多く、互いの研究を臨床に活かし、情報交換したりする中で、人間関係が広がる点も魅力です。今後も研究者と現場をつなぐ役割を意識し、現場に還元できる成果が得られるよう研究を進めていきます。

藤井 慎太郎 さん

畿央大学健康科学研究科博士後期課程3年在籍 畿央大学健康科学部理学療法学科卒業
西大和リハビリテーション病院勤務 理学療法士

開設科目と授業担当者

科目名	単位	担当教員	修了要件			
共通科目 先端ヘルスサイエンスセミナー	1	植田政嗣・金内雅夫・山本隆・永澤健・大住倫弘・小西洋太郎・前原佳代子・冬木正紀	共通科目2科目 必修2単位			
インタープロフェッショナルワーク論	1	田平一行・東実千代・金内雅夫・乾富士男・高取克彦・福本貴彦・村木悦子・米田武志				
科目名	領域	授業科目の名称	単位	担当教員	修了要件	
専門科目	健康生命科学分野	生体機能科学特講	2	植田政嗣・金内雅夫・永澤健・前原佳代子・山本隆・乾富士男	特講2単位 + 特講演習2単位	
		生体機能科学特講演習	2			
	健康支援科学分野	健康リハビリテーション科学特講	2	森岡周・今北英高・庄本康治・田平一行・峯松亮・高取克彦・松尾篤・岡田洋平・瓜谷大輔・大住倫弘・信迫悟志・冷水誠・前岡浩		
		健康リハビリテーション科学特講演習	2			
	ライフテクノロジー(生活支援技術)学分野	健康生活環境科学	健康生活環境科学特講	2		小西洋太郎・東実千代・栢野新市
			健康生活環境科学特講演習	2		
分野共通	特別研究	次世代型生活支援技術学特講	2	冬木正紀		
		次世代型生活支援技術学特講演習	2			
合計			6	上記の教員	特別研究の論文審査で6単位	

必修

先端ヘルスサイエンスセミナー

内外の最先端の健康科学に関連する学際的な研究方法を学ぶ。本研究科の特に優れた研究業績を挙げている専任教員から、それぞれの領域における詳細な研究方法をオムニバス形式で学び、積極的な討論を経て、博士論文作成に必要な知を涵養する。本科目は分野共通の必修科目とし、メディアを利用した科目とする。

インタープロフェッショナルワーク論

リハビリテーション専門職(理学療法士、作業療法士など)、看護職、栄養士、建築士をはじめとして、医学、福祉学、工学、理学、環境学、社会科学など異なる教育的背景を持つ学生が、ヘルスプロモーションという共通の目標に向かって課題を探究し相互に学ぶプロセスを通して、専門職間の連携と協働の意義や方法論を修得するものである。これにより、学生の多角的な視点を育て、特定領域にしばられない新しい発想と論理的・創造的思考力を培うことをねらいとしている。本科目は分野共通の必修科目とし、メディアを利用した科目とする。

履修モデル(例)

健康生命科学分野

学生プロフィール

本研究科修士課程、あるいは他学の修士課程から進学し、将来、健康生命科学分野における教育者・研究者として業務に就くことを目標としている者。

志望理由

本研究科修士課程において、ヒトの視覚認知研究を行ったが、そのエビデンスを追う目的で、実験動物なども用いて発展させるために博士後期課程に進学を希望。

研究課題

「視覚系におけるシナプス可塑性の変化機構に関する研究」

科目	授業科目	単位	内容
共通科目	先端ヘルスサイエンスセミナー	1	上記参照
	インタープロフェッショナルワーク論	1	上記参照
専門科目	生体機能科学特講	2	イオンチャネルやトランスポータ、シナプス伝達、シナプス可塑性、筋収縮、感覚受容、感覚の中核処理、中枢の統御機能など動物性機能や代謝、呼吸循環など人体のホメオスタシスに関する植物的機能に関して学ぶ。
	生体機能科学特講演習	2	動物性機能あるいは植物性機能における新規的なメカニズムを明らかにするための実際の実験手法を実践的に修得する。
	特別研究	6	研究課題の通り
合計		12	

健康支援科学分野(健康リハビリテーション科学)

学生プロフィール

本研究科修士課程、あるいは他学の修士課程を修了した理学療法士で、将来、臨床において指導的役割を果たしていくことを希望する者。

志望理由

理学療法士の資格取得後3年間民間病院で勤務し、働きながら修士号を取得。その後、老健施設への配属となるが、施設入所者個々の活動状態に応じた生活障害の改善と自立支援の方策を明らかにすることを目的に進学を希望。

研究課題

「インタープロフェッショナルワークの実践による介護老人保健施設入所者の生活障害改善および自立支援に関する研究」

科目	授業科目	単位	内容
共通科目	先端ヘルスサイエンスセミナー	1	上記参照
	インタープロフェッショナルワーク論	1	上記参照
専門科目	健康リハビリテーション科学特講	2	健康科学といった学際的な視点から、各領域のリハビリテーション科学について、総合リハビリテーション学(生活援助科学)から、内外の最新知見を学ぶ。
	健康リハビリテーション科学特講演習	2	総合リハビリテーション学(生活援助科学)領域における明らかにすべき問題を探り、その問題を解決するための新しい研究デザインを検討する。
	特別研究	6	研究課題の通り
合計		12	

Q & A

Q 学位論文作成に4年以上かかりそうです。長期履修の制度はありますか？

A 博士後期課程に長期履修制度はありません。3年を超えて在籍し研究活動を続ける場合の授業料等は、半期分50,000円、通年で100,000円で、最長入学後から6年間在籍できます。

Q 研究でデータを取るため、深夜から朝まで研究施設・設備を使いたいのですが可能でしょうか？

A 実験系の研究では24時間通してデータを取得し続けなくてはならないものもあり、また社会人学生が多く、夕方からの本格的な実験を希望する学生が多いのも本学の特色です。そこで研究施設・設備については特別に24時間使用できる環境を整えています。

教員プロフィール



植田 政嗣 健康科学研究科長・教授
博士(医学)大阪医科大学

大阪医科大学(医学部産婦人科学)婦人科腫瘍科科長を経て、2006年より大阪がん循環器病予防センター婦人科部長、2016年より同センター副所長、大阪大学招聘教授。2018年4月から本学健康科学部長・大学院健康科学研究科長・教授に就任。日本臨床細胞学会会長、日本婦人科がん検診学会会長、日本ヒト細胞学会会長を歴任。大学卒業以来、一貫して婦人科腫瘍学の基礎および臨床的研究に取り組んできた。

- テーマ例
- 子宮頸がんの予防・診断・治療
 - がんの浸潤・転移と血管新生
 - 遺伝子診断によるがんや生活習慣病のリスク評価



金内 雅夫 教授
博士(医学)奈良県立医科大学

奈良県立医科大学医学部医学科助手、講師、助教授を経て畿央大学健康科学部健康栄養学教授、日本腎臓学会学術評議員、日本病態栄養学会評議員、日本老年医学会学術評議員として学会活動に参画。臨床栄養学、腎臓病学、老年医学の領域で研究活動を行っている。日本医師会認定の健康スポーツ医でもある。

- テーマ例
- 食事の質と肥満・高血圧のリスクについて
 - 虚弱高齢者(フレイル)の低栄養症候群とQOL
 - 介護従事者の健康観と食事栄養調査



前原 佳代子 教授
博士(医学)浜松医科大学

浜松医科大学医学部医学科卒業、同大学大学院医学研究科博士課程修了。医師。浜松医科大学附属病院で勤務後、国立長寿医療研究センター、英国パターンソンがん研究所、久留米大学分子生命科学研究所、国立成育医療研究センターで研究に従事。2015年から現職。専門は分子生物学、基礎老化学、産婦人科学。

- テーマ例
- ゲノム編集を利用した疾患モデル細胞の作製と疾患関連遺伝子の機能解析
 - 細胞老化とクロマチン構造の研究



乾 富士男 准教授
博士(保健学)大阪大学

2000年大阪大学医学部保健学科看護学専攻卒業。2010年畿央大学准教授。2011年から大阪大学ツインリサーチセンター招聘准教授。2017年ヘルシンキ大学社会科学部客員研究員。専門は行動遺伝学。特に一卵性双生児と二卵性双生児のペア間の一致率の違いを利用する「双生児研究法」により、表現型への遺伝と環境の影響を解析する研究を行っている。

- テーマ例
- 高齢者の閉じこもりに関する行動遺伝学的研究
 - 睡眠に関する行動遺伝学的研究
 - 病は気からの解明



祐實 泰子 講師
博士(医学)大阪大学

大阪大学大学院医学修士課程修了後、同大学院にて博士号取得。博士取得後、大阪バイオサイエンス研究所の特別研究員を経て、企業研究所主任研究員としてがんの新たな創薬ターゲットとなる分子や分子メカニズムや研究を行う。2016年から現職となり、新たに老化と筋芽細胞の分化メカニズムの研究にも取り組んでいる。

- テーマ例
- がんの微小環境と治療抵抗性
 - 活性化型Srcのがん化メカニズム
 - 老化幹細胞ニッチにおける筋再生制御に関わる因子の同定



森岡 周 研究科主任・教授
博士(医学)高知医科大学

日本神経理学療法学会副代表運営幹事、日本ニューロリハ学会評議員、日本ペインリハ学会副理事長、日本運動器疼痛学会代議員、首都大学東京客員教授。病院勤務を経てフランス・サンタンヌ病院留学。専門学校教員を経て畿央大学着任。現在はニューロリハ研究センター長・教授として脳科学・ニューロリハの研究・教育に取り組み、数多くの業績で知られている。

- テーマ例
- 半側空間無視のメカニズムとニューロリハビリテーション
 - 運動主体感と運動学習の相互関係性
 - 身体性変容のメカニズムとニューロリハビリテーション
 - 脳卒中後の運動障害のメカニズムとニューロリハビリテーション



松尾 篤 教授
博士(保健学)神戸大学

平成15年から畿央大学助手、その後同助教、准教授を経て平成26年から畿央大学大学院教授。畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター教授も併任し、社会神経科学と神経リハビリテーションの融合と発展に尽力している。

- テーマ例
- コミュニケーションに関連する社会神経科学研究
 - 脳卒中後の運動障害に対する神経リハビリテーション研究



信迫 悟志 准教授
博士(健康科学)畿央大学

平成13年に理学療法士免許取得。平成21年に畿央大学大学院健康科学研究科修士課程を修了し、平成24年に同大学院博士課程を修了。急性期、回復期、維持期における14年間の臨床経験を経て、平成27年より畿央大学大学院特任助教、その後同助教を経て、現在准教授。現在は、主に高次脳機能障害、発達障害の臨床研究に取り組んでいる。

- テーマ例
- 高次脳機能障害のメカニズムとリハビリテーション研究
 - 発達障害のメカニズムと発達支援/リハビリテーション研究
 - 新たなニューロリハビリテーション技術開発研究



岡田 洋平 准教授
博士(保健学)大阪府立大学

畿央大学健康科学部理学療法学科准教授。畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター身体運動制御学部門にも所属。応用健康科学、リハビリテーション科学、神経疾患のリハビリテーションの領域で研究活動を行っている。日本理学療法士協会に所属しており、専門理学療法士(神経系)を取得している。

- テーマ例
- ヒトの運動制御機構に関する研究
 - 姿勢、歩行制御の神経機構とリハビリテーション
 - 運動学習
 - 神経疾患の運動障害のメカニズムとリハビリテーション



冷水 誠 准教授
博士(保健学)神戸大学

理学療法士として臨床経験後、神戸大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程を修了し博士(保健学)を取得。平成16年度より畿央大学健康科学部理学療法学科助手として勤務し、同助教を経て平成24年度より准教授として運動学習および動作制御メカニズムに関する研究に取り組んでいる。

- テーマ例
- 効果的な運動学習をもたらし介入方法に関する研究
 - 社会的報酬および対人関係がヒトの行動変容に及ぼす影響に関する研究
 - 姿勢および歩行性の神経メカニズム解明とそのトレーニングに関する研究



大住 倫弘 准教授
博士(健康科学)畿央大学

理学療法士として総合病院で勤務後、畿央大学ニューロリハビリテーション研究センターに勤務。畿央大学大学院健康科学研究科で痛みの基礎研究を行い博士(健康科学)取得。現在は、幻肢痛・複合性局所疼痛症候群・脳卒中後疼痛・慢性腰痛・がん性疼痛の臨床研究に取り組んでいる。日本ペインリハ学会理事として学会活動に参画。

- テーマ例
- 複合性局所疼痛症候群のリハビリテーション研究
 - 幻肢痛のリハビリテーション研究
 - 慢性腰痛のリハビリテーション研究



前岡 浩 准教授
博士(保健学)神戸大学

神戸大学大学院医学系研究科修士課程および神戸大学大学院保健学研究科博士課程修了。理学療法士として病院で勤務後、平成19年より畿央大学健康科学部理学療法学科助手として勤務し、その後同准教授として教育および研究活動を継続。日本理学療法士協会専門理学療法士(神経理学療法)を取得し、疼痛関連領域に関する研究活動を行う。

- テーマ例
- 痛みの中核機構におけるメカニズム研究
 - 痛みの情動、共感および社会的痛み研究
 - 痛みに対する治療戦略に関する研究



田平 一行 教授
博士(保健学)広島大学

日本呼吸理学療法学会運営幹事、奈良県理学療法士協会理事、聖隷三方原病院、国家公務員共済組合連合会吉島病院にて主に呼吸器疾患患者の理学療法に従事した後、畿央大学に着任。日本呼吸ケア/リハビリテーション学会誌編集委員、奈良県理学療法士協会学術局長など務める。呼吸リハビリテーションに関する執筆や研修会講師として活躍。

- テーマ例
- 呼吸器疾患患者における骨格筋筋電動態の臨床的検討
 - 喀痰排出能力としてのCPFの妥当性と関連する要因についての検討
 - 咳嗽能力判定システムの開発



宮本 直美 助教
博士(医学)長崎大学

信州大学医療技術短期大学部を卒業後、金沢循環器病院、長崎呼吸器リハビリクリニックに勤務し、主に呼吸器疾患・循環器疾患患者さんの理学療法に携わる。長崎大学大学院医歯薬学総合研究科にて修士課程および同大学院博士課程を修了し、平成26年より畿央大学健康科学部理学療法学科助教として勤務。呼吸リハビリテーション分野に関する研究を継続している。

- テーマ例
- 慢性呼吸器疾患患者に対する呼吸リハビリテーション
 - 間質性肺疾患患者に対する呼吸リハビリテーション
 - 運動強度に対する呼吸循環応答の標準値開発と臨床応用



庄本 康治 教授
博士(保健学)神戸大学

臨床活動は府中病院、ベルランド総合病院、大阪厚生年金病院(JCHO大阪病院)で実施。2007年から畿央大学健康科学部理学療法学科、大学院健康科学研究科教授。日本物理療法学会理事長、日本理学療法士協会、奈良県理学療法士協会。物理療法全般に関する臨床研究を中心に実施している。

- テーマ例
- TENSが鎮痛に与える影響(基礎・臨床)
 - NMESが末梢循環、筋力に与える影響(基礎・臨床)
 - NMES、TENS、超音波療法、超短波療法機器開発と臨床効果
 - 直流前庭刺激の臨床的効果
 - 長時間持続的超音波療法の与える影響(基礎・臨床)



高取 克彦 教授
博士(保健学)神戸大学

畿央大学ヘルスプロモーションセンター長。神戸大学大学院保健学研究科博士後期課程修了。大阪厚生年金病院リハビリテーション科、西大和リハビリテーション病院を経て、畿央大学健康科学部理学療法学科に入職。日本理学療法士協会認定、介護予防および地域ケア会議推進リーダー。地域高齢者の介護予防、転倒予防、健康増進分野にてアクションリサーチと公衆衛生的視点の両面から研究活動を行っている。

- テーマ例
- 住民主体の介護予防における客観的効果の検証と一般介護予防の見える化について
 - 高齢者の主観的年齢と健康関連アウトカムとの関係性について
 - 介護予防における自助と互助の客観的効果に関する研究



今北 英高 教授
博士(保健学)広島大学

日本整形内科学研究会理事、信州大学医療技術短期大学部を卒業後、9年間臨床にて経験を積み、広島大学大学院へ、同大学院博士後期課程を修了後、本学に着任。在外研究員としてアメリカ North Carolina research campusにて研究活動を行う。最近、新たにFascialに関する研究を開始し、2018年11月、ドイツベルリンでの国際学会にてThe Best Basic Science Abstract Awardを受賞。現在も研究を展開している。

- テーマ例
- COPDにおける基礎研究
 - 骨格筋とFascia(運動器)の基礎研究
 - 高齢者のストレス、免疫系の研究



峯松 亮 教授
博士(保健学)広島大学

広島大学医学部保健学科を卒業後、広島大学医学系研究科保健学専攻修士課程および博士課程を修了。2003年に畿央大学健康科学部に着任。現在に至る。介護支援専門員、日本理学療法士協会専門理学療法士(基礎系、生活支援系)、骨粗鬆症学会骨粗鬆症マネージャーの資格を有し、関連学術分野で研究活動を続けている。

- テーマ例
- 骨粗鬆症に関する基礎的・臨床的研究について
 - 高齢者の身体機能について



瓜谷 大輔 准教授
博士(医学)兵庫医科大学

日本理学療法士学会徒手理学療法部門運営幹事、日本徒手理学療法学会理事、日本理学療法士協会専門理学療法士(運動器、生活環境支援)、認定理学療法士(徒手理学療法)。2000年神戸大学医学部保健学科卒業。2017年メルボルン大学客員研究員。専門は運動器障害理学療法。WCPT2015 Early Career Researcher Award、2015年運動器の10年日本賞優秀賞受賞。

- テーマ例
- 足部と膝関節のバイオメカニクスの関係に関する研究
 - 変形性膝関節症患者の心理社会的側面に関する研究
 - 変形性膝関節症および痛みを対象とした疾患特異的質問紙調査日本語版の開発



福本 貴彦 准教授
修士(医科学)和歌山県立医科大学

九州リハビリテーション大学校と九州工業大学を卒業し、一人医工コラボレーションをしている。九州労災病院で10年の臨床経験を積んだのちに畿央大学へ就職。臨床時代は、工学部で培った力学の知識を使い、加速度計を用いたスポーツ動作の力学的解釈をしていた。現在は、三次元動作解析装置を使用して客観的に様々な動作を捉えとともに、臨床現場で簡便に計測できる評価機器の開発などを行っている。

- テーマ例
- スポーツ動作解析
 - 軟性装具の開発
 - 足指握力の標準値作成
 - 足指握力と身体運動との関係調査



河野 由美 教授
博士(文学)大阪市立大学

看護師として8年間病院勤務した後、大学院で社会心理学を専攻する。外邦シンクタンクで主任研究員を務め大規模調査を実施。宗教心理学や死生心理学などの専門書執筆の他、日本看護教育学会誌・日本看護科学会誌・実験社会心理学研究(優秀論文賞受賞)など多数の学術雑誌に論文を投稿。実証的にアプローチする社会心理学の視点から生老病死を研究している。

- テーマ例
- ヒューマンケアに関する心理学的研究
 - 死生観など死に関連した態度とSpiritualityに関する心理学的研究
 - 在宅ターミナルケア(看取り)と高齢者のターミナルケアに関する研究

教員プロフィール



秋山 明子 教授
博士(保健学)大阪大学

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後課程修了。看護師、助産師、保健師。京都大学医学部附属病院、第一勧業銀行本店健康管理室(現みずほ銀行)、財団法人家族計画国際協力財団国際事業部、新宿区保健所、大阪大学、三重県立看護大学などを経て、現在、畿央大学健康科学部看護医療学教授。地域で暮らせるしくみづくりとして、在宅医療体制、訪問看護師の育成、看取りなどの研究に取り組んでいる。

- 新卒訪問看護師育成・支援のための長期的な看護教育プログラムの開発
- 在宅医療体制に関する研究
- 美齢(美しく齢を重ねること)に関する研究



堀江 尚子 准教授
博士(学術)大阪大学

看護師、認定心理士。大阪市立大学G-COE特別研究員、奈良県立医科大学医学部看護学教授を経て畿央大学に勤務し、在宅看護学を担当。2007年、大阪YMCA創立125周年記念研究論文奨励賞受賞。ホームレスの入所する生活保護関連施設で長期的なフィールドワークに取り組み、社会的弱者の支援関係のグループ・ダイナミクスについて研究を行っている。

- 貧困単身高齢者の孤独死問題に関する研究
- 在宅多死時代における療養の課題に関する研究
- 看護学生の学習における自律性の促進に関する研究



文 鐘聲 准教授
博士(保健学)大阪大学

日本公衆衛生学会認定専門家。2014年より現職。公衆衛生学、高齢者保健福祉、国際保健(特に在日外国人)を専門としている。自治体と協働した壮年期・高齢期の健康増進、介護予防等の研究(KAGUYAプロジェクト)、百寿者を含む在日外国人高齢者の健康と生活に関する研究、奈良県内の高齢者を対象とした長期縦断研究(藤原京スタディ)を主に行っている。

- 地域在住高齢者のソーシャル・キャピタルと健康に関する研究
- 健康の社会的決定要因(健康格差)に関する研究
- 在日外国人の健康と生活に関する研究



松本 泉美 教授
博士(学術)奈良女子大学

兵庫県立こども病院で4年の臨床経験後保健師資格を取得し、産業保健分野で18年保健師として従事。奈良文化女子短期大学助教、白鳳女子短期大学講師、神戸常盤大学講師を経て、2012年畿央大学に准教授着任後現在教授。日本産業看護学会評議員および学会誌編集委員長。産業分野や地域および韓国でのヘルスプロモーションや健康課題対応に関する研究を行っている。

- 国内外の喫煙対策と禁煙支援に関する研究
- 健康政策の国際比較研究
- 地域包括ケアシステム構築に関する研究



山崎 尚美 教授
博士(看護学)愛知県立大学

奈良県認知症ケア専門士会会長。2019年より看護実践研究センター長、愛知県立大学大学院看護学博士後課程修了。藍野大学保健医療学部看護学助手、兵庫医療大学看護学部講師、宮城大学看護学部・看護学研究科准教授を経て、平成26年より畿央大学教授。認知症高齢者グループホームの終末期ケアにおける看護連携システムについて成果をまとめた。

- 認知症高齢者の終末期ケアに関する研究
- グループホームの介護職と看護職の連携に関する研究
- アジア圏における認知症ケアパッケージの開発に関する研究



山本 裕子 教授
博士(看護学)大阪府立大学

大阪大学医学部附属病院看護師、大阪大学助手、大阪府立大学講師、摂南大学教授を経て、平成27年度より畿央大学教授。平成17年度大阪府立大学若手研究員在外研究研修にて半年間アメリカのVillanova大学に出張し、アメリカの看護教育について研究。主な研究領域は慢性看護学で、糖尿病看護・神経難病看護をテーマにしている。日本糖尿病教育・看護学会評議員。

- 糖尿病とがんを併せ持つ患者のセルフマネジメント支援
- 神経難病患者を看護する看護師への支援
- 看護教員・看護師のキャリア開発



廣金 和枝 准教授
博士(保健学)大阪大学

総合病院での助産師経験を経て、中学校・高等学校の保健室に11年間勤務、子どもたちの健康管理に携わる。慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程において、コミュニティ論を修め、大阪大学博士後課程では、食行動異常の発現予測尺度を開発し、現在も思春期女子の健康管理を主軸に研究を続けている。2012年より畿央大学講師、2014年より現職。

- 思春期女子における食行動異常の早期発見と早期対応システムの構築
- 学校を拠点にした公衆衛生看護活動のあり方に関する研究
- 地域でリスクを抱える母と子への支援と連携のあり方に関する研究



小西 洋太郎 教授
博士(保健学)徳島大学、大阪市立大学名誉教授

1978年徳島大学大学院栄養学専攻修士課程単位取得退学。同大学歯学部助手を経て大阪市立大学生活科学部助手。1985年日本学術振興会特定国派遣研究員としてベルギー・ルーヴラン大学に留学。助教授を経て2004~2015年大学院生活科学研究科教授。この間研究科長・学部長。2014年厚生労働大臣表彰(栄養士養成功労者)。専門は食品科学。

- アマランサスやキヌアなど低利用有用食料資源の食品栄養学的研究
- 食品科学の立場からアンヒドロ糖の機能性の開発



栢野 新市 教授
博士(学術)大阪市立大学

大阪市立大学生活科学部食品学専攻卒業。三基商事株式会社総合研究所にて機能性食品の研究開発に従事した後、平成16年に畿央大学健康科学部助手、平成21年より現職。この間、大阪市立大学大学院生活科学研究科客員研究員を経て客員助教授。日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本食品化学学会、日本栄養学教育学会、日本調理科学会に所属。

- ドライフルーツが有する機能性の評価に関する研究
- 植物性食品素材に含まれる機能性成分の構造解析および定量法に関する研究
- 食品の抗酸化性による糖尿病合併症予防の研究



山本 隆 教授
博士(歯学)大阪大学、大阪大学名誉教授

大阪大学歯学部(口腔生理学)助手、講師、助教授を経て、大阪大学人間科学部教授。米国モネリ化学感覚研究所研究員。大阪大学名誉教授。畿央大学健康科学部教授。畿央大学図書館長。健康科学研究所長。日本生理学会、日本神経科学学会、日本味と匂学(元会長)などの学会活動。日本味と匂学会、安藤百福賞、大賞、杉田玄白賞、Scientific Reports誌のEditorial Board Member。

- 味と香りの学習、記憶に関する行動学的・神経科学的研究
- 食べ物のおいしさ、まずさを生じる末梢と中枢のメカニズム
- 食成分の機能性、特にわさびの糖尿病予防効果に関する研究



上地 加容子 教授
博士(健康科学)畿央大学

奈良県立医科大学附属病院、奈良県の保健所、保健センターで管理栄養士として勤務。奈良女子大学大学院生活環境学修士課程、畿央大学大学院健康科学研究科博士課程修了。2008年畿央大学健康科学部健康栄養学専攻に就任。現在に至る。日本味と匂学、日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本食育学会、日本給食経営管理学会に所属。

- 食嗜好性獲得における味覚感受性の研究
- 幼若期の食経験による嗜好性獲得と成長後の食行動について



米田 武志 准教授
博士(農学)京都大学

大阪市立大学(学部・修士)において擬穀物の機能性研究に従事。その後、京都大学大学院にて食品のおいしさ、特に油脂の痛み付きになる魅力について行動科学的研究を行い学位(農学)を取得。学位取得後は大塚製薬株式会社にて6年半、大豆の健康機能、主に更年期女性の諸症状に関する食品開発に従事。三重短期大学助教を経て2017年より現職。

- 油脂を含む食品のおいしさに関する研究
- おいしさを評価する行動科学実験装置の開発



永澤 健 教授
博士(医学)東京医科大学

東京医科大学大学院医学研究科博士課程修了。東京医科大学医学部基礎研究員、広島工業大学情報学部助教・生命学部准教授を経て畿央大学健康科学部健康栄養学准教授。専門は運動生理学とスポーツ栄養学。骨格筋の代謝・循環の応答機序に関する運動生理学的研究とスポーツ選手の栄養管理に関する研究に取り組んでいる。日本体育医学会評議員。

- 骨格筋の伸長による抗生活習慣病作用の解明
- スポーツ選手における運動後の栄養管理に関する研究
- 血管機能改善に効果的な食成分とその作用機序に関する研究



村木 悦子 准教授
博士(食品栄養科学)静岡県立大学

神戸女子大学家政学部卒業、同大学院を経て、大阪市立大学附属病院栄養部研修生。城西大学薬学部医療栄養学助手および同短期大学非常勤講師を兼任。国立精神・神経医療研究センター神経研究所流動研究員および同病院臨床検査部管理栄養士を併任。静岡県立大学にて博士取得。2014年より現職。管理栄養士。専門は臨床栄養学、栄養生理学、食品栄養科学。

- ハーブ・スパイスの生活習慣病予防・改善効果に関する研究
- サルコペニア予防・改善効果に関する栄養学的研究
- 加齢および投薬による食欲不振を改善する食材の検索



三井田 康記 教授
修士(工学)京都大学

設計事務所勤務を経て、畿央大学健康科学部教授。奈良市開発審査委員会、桜井市都市計画委員会委員長、景観審査委員会などを務める。「あしびや」、「葉師堂の家」等の建築作品により「奈良景観調和デザイン賞」、「奈良市建築文化賞」など受賞。大和町家/バンクネットワーク顧問など奈良県各地のまちづくり活動にかかわる。一級建築士。

- 新町家の創造
- 昔ながらの町家の空間研究と活用
- 町並みの修景とまちづくりへの活用に関する研究



東 実千代 教授
博士(学術)奈良女子大学

奈良女子大学生活環境学部助手、奈良女子大学大学院人間文化研究科助手、畿央大学健康科学部人間環境デザイン学助教授、准教授を経て現職。日本家政学会、国際家政学会、日本建築学会、室内環境学会、人間生活・環境系学会等に所属し、住居学、住環境学の領域で研究・教育活動を続けている。室内環境学会、人間生活・環境系学会評議員。一級建築士。

- 室内空気質の実態と居住者の住まい方
- 温熱生理・心理反応の個人差
- 室内環境・生活習慣と健康



藤井 豊史 教授
修士(工学)大阪大学

大阪大学大学院(環境計画学専攻、上田篤研究室)修了後、(株)大杉喜彦建築総合研究所勤務を経て、(有)スタジオS.E.A.一級建築士事務所(<http://www.s-sea.com/>)設立・同主宰。畿央大学健康科学部人間環境デザイン学助教授を併任。建築家、一級建築士。

- 建築・住宅の設計(デザインのアプローチ)
- 建築・住宅の設計(技術のアプローチ)
- 建築・住宅の設計(歴史のアプローチ)



西山 紀子 教授
博士(工学)京都工芸繊維大学

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士後課程建築学専攻修了。京都橋大学、九州女子大学を経て平成27年畿央大学教授。生活行動とインテリアエレメントの関係性や、産前産後の妊産婦ケア空間における医療機能確保と居住環境向上の両立に関する研究を行うなど、特にインテリア計画の領域を専門とする。一級建築士。

- 産科病棟入院室(病室)の環境改善に関する研究
- 産科外来空間のインテリアデザインに関する研究
- ユニバーサルデザインによる育児支援の可能性に関する研究



李 沅貞 准教授
博士(学術)大阪市立大学

2004年から畿央大学助手、講師を経て現在は准教授。優れた日本の染色工芸、加賀友禅の色彩に魅せられ色彩学の分野へ。現在は漆器を用い、主観的な表現「人間が感じる視覚的質感」を物理的な情報「定量的な反射特性」に対応させ「視覚的質感を定量化する」手法を開発している。

- 光反射モデルに基づいた黒漆の質感の定量化と3DCG再現
- 絹糸の光反射特性に関する研究
- 老人福祉施設における介護ユニフォームに関する研究



清水 裕子 助教
博士(学術)奈良女子大学

ハウスメーカーで技術職として勤務の傍ら、地域居住学研究により博士号取得。平成28年より現職。住民主体のまちづくりを核として、空き家の利活用、地域コミュニティの再構築などを研究。建築学会、都市計画学会、家政学会に所属。都市計画学会学術委員、家政学会支部役員を兼任。

- 移住者の既存コミュニティとの関わりに関する研究
- 地域産業の活性化に関する研究
- 観光政策と地域コミュニティとの関わりに関する研究



冬木 正紀 准教授
博士(理学)総合研究大学院大学

学位取得後、株式会社コンボン研究所研究員、神戸大学自然科学系先端融合研究助教授、畿央大学教育学習基盤センター特任准教授を経て現職に就く。文部科学省光科学異分野横断萌芽研究会共同代表等も務める。本学では物質表面および光に関する研究経験を活かして、人工筋肉の特許を取得した。学内および学外連携により特許技術の健康・医療への応用を進めている。

- 実用的な人工筋肉の開発
- 人工筋肉の健康・医療への応用(リハビリテーション器具、パワードスーツ等)
- 光を用いた腫瘍の検出・治療法の開発



理論的・科学的視点に立った教育実践力を養成

教育学研究科のカリキュラムは、研究活動の土台となる専門基礎科目、「教育実践学」と「発達支援教育」分野の専門科目、教育実践力を養成する演習科目、そして研究指導が有効に組み合わさった内容になっています。理論を実践的に検証して研究論文としてまとめていくと同時に、教育実践力そのものを鍛える内容が特色です。

教育学研究科が主に取り組む現代の教育課題

1. 生徒指導の充実
2. 特別支援教育の充実
3. ICTを活用した教育方法・技術の開発・応用

教育学研究科では現代の教育諸課題の中でも上記の3つの課題に焦点を当て、それぞれに実践的に取り組むことのできる専門性を持った教員を配置しました。教育課程や学級経営・学校経営、そして障がいや健康問題など困難を抱える子どもについて、右図のように実践、分析、改善策立案を繰り返し、実践的解決力を身につけます。



教育学研究科

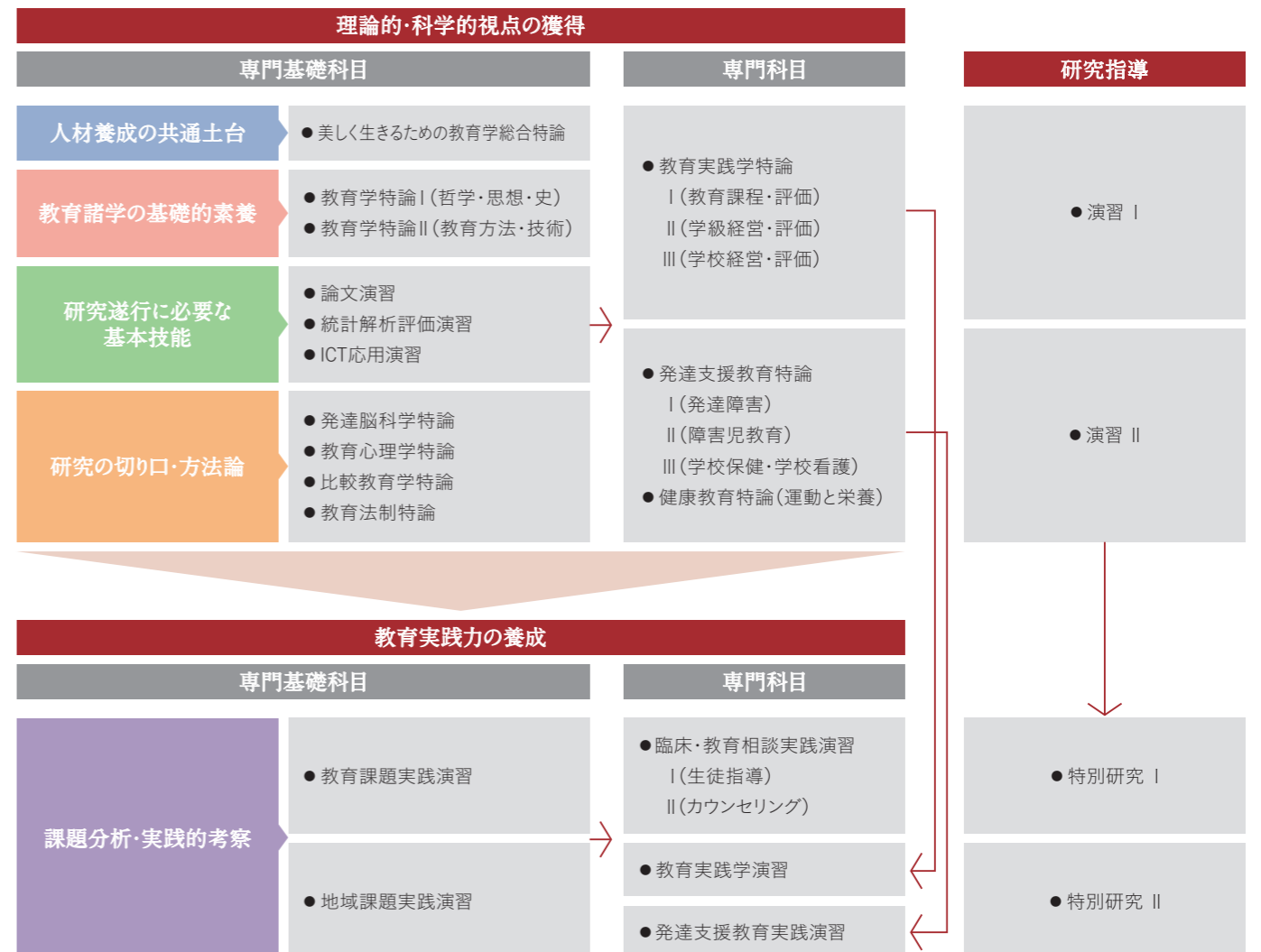
教育実践学専攻



教育学研究科長
前平 泰志
京都大学大学院 教育学研究科
名誉教授

経験を「実践知」「臨床知」に変える

教育が知識伝達のプロセスと考える時代は終わりました。グローバル化や情報化、少子高齢化といった未曾有の社会変動の中で、学校現場においては、いじめや不登校の問題をはじめとして様々な教育課題に直面しています。そして、それらの課題解決には、かつて学んだ知識や技術であらうだけでは不十分です。先端的な研究に裏打ちされた高度な専門的知識や技術と実践的指導力を持つ「教育」者の登場が待たれています。こうした新しい知の創造の拠点にふさわしい場が、畿央大学大学院教育学研究科(修士課程)です。人と人が出会う場では、たえず教育が行われています。本研究科は、学校教員や教育関連学部を卒業した人たちの現職教育の場として位置づけられますが、そればかりでなく、対人関係を専門職とされている人や専門職をめざそうとしているすべての人に開かれています。本研究科は、「教育」の現場で起こる諸課題の解決に資するために、「教育実践知」「臨床知」というキーワードをたずさえて教育と研究にあたっています。それは、教育の現場や地域との連携をめざす意志の表明でもあります。研究の成果を地域に還元し、地域の教育の発展と課題解決に貢献することも本研究科の使命です。本研究科では現代の教育課題の解決に真摯に取り組む、現場の実践の改善に指導的役割を果たそうとする方々の入学をお待ちしています。



教育学研究科 教育実践学専攻

修士課程

2年

取得できる学位 >> 教育学研究科修士課程 修士(教育学) (Master of Education)

教育実践力を高めて、課題解決を図る

■ 専修免許状(小学校・幼稚園・養護教諭)を取得可能

大学院入学時に一種免許状を取得されている方は、所定科目の単位を取得し大学院修士課程を修了することで専修免許状を取得できます。

取得できる 免許の種類と 所要年数	一種免許状 >>>	専修免許状 ※1	小学校教諭・幼稚園教諭・養護教諭	2年間
	免許状なし >>>	専修免許状 ※1	小学校教諭・幼稚園教諭・養護教諭	3年間
	免許状なし >>>	一種免許状 ※2	小学校教諭・幼稚園教諭・養護教諭	3年間

※1 専修免許状取得には当該校種の一種免許状を取得し、大学院授業科目のうち指定された12科目24単位を修得することが必要です。
 ※2 一種免許状取得には、学部科目等履修により小学校教諭67単位、幼稚園教諭59単位、養護教諭64単位が必要ですが、既に取得されている資格・単位によっては軽減されます。授業は昼間に前期・後期各15回が行われ、また教育実習や介護等体験(小学校教諭のみ)も必要となります。

教員免許状を取得していない方も、最短3年で専修免許状が取得できます

現在教員免許状を取得していない方は、大学院の「長期履修学生制度」と学部の授業を「科目等履修制度」で単位取得することで当該校種の一つ免許状を取得でき、加えて大学院で所定科目を履修することで専修免許状が取得できます(最短3年)。長期履修学生制度を利用した場合の大学院の学費総額には変わりはありませんが、科目等履修制度については有料(学部の授業は1科目につき20,000円)です。大学院で教員免許状を取得し教員をめざす方の教員採用試験対策については、畿央大学教採・公務員対策室が全面的にバックアップします。



■ 履修モデル

必修科目及びそれぞれの問題意識や興味・関心によって選択科目を履修します。1人の学生の履修ケースを下記に示しますが、これ以外の履修ももちろん可能です。また、1年次に配当されている科目を2年次に受講することや、修了要件以上の単位数を取得することも可能です。

■ いじめや不登校といった教育課題の解決をめざす学生のケース (数字は単位数)

	専門基礎科目		専門科目	演習及び特別研究	合計単位数	
	必修	選択				
1年次	前期	美しく生きるための教育学総合特論	教育法制特論	—	2	12
		教育課題実践演習	教育学特論II(教育方法・技術)			
2年次	前期	教育学特論I(哲学・思想・史)	—	2	2	8
		論文演習	地域課題実践演習			
2年次	後期	—	教育実践学特論II(学級経営・評価)	2	2	10
		—	教育実践学特論III(学校経営・評価)	2	2	
2年次	前期	—	教育実践学演習	2	2	8
		—	臨床・教育相談実践演習II(カウンセリング)	2	2	
2年次	後期	—	—	2	2	4
		—	臨床・教育相談実践演習I(生徒指導)	2	2	
合計	8(8)	8(6)	10(8)	8(8)	34(30)	

注:表中※の付いた科目は、1年次配当の専門基礎科目を2年次で履修するもの
 注:単位の欄の()内の数字は修了要件の単位数

■ 論文作成の流れ

出願時に研究指導を希望する教員を決める。入学後は2年間その教員の指導のもとに学位論文を完成させていく。



※院生一人あたり1年次および2年次に最大10万円の院生実習費を、指導教員の指導のもと研究のために使用することができます。

■ 開設科目一覧

	科目名	配当年次	授業形態	単位	修了要件
専門基礎科目	美しく生きるための教育学総合特論	必修	1前 講義	2	7科目14単位以上
	教育課題実践演習	必修	1前 演習	2	
	地域課題実践演習	特色ある科目	1後 演習	2	
	論文演習	必修	1後 演習	2	
	統計解析評価演習		1前 演習	2	
	ICT応用演習		1後 演習	2	
	教育学特論I(哲学・思想・史)	必修	1前 講義	2	
	教育学特論II(教育方法・技術)		1前 講義	2	
	発達脳科学特論		1後 講義	2	
	教育心理学特論		1前 講義	2	
専門科目	比較教育学特論		1後 講義	2	4科目8単位以上
	教育法制特論		1前 講義	2	
	教育実践学特論I(教育課程・評価)		1後 講義	2	
	教育実践学特論II(学級経営・評価)		1後 講義	2	
	教育実践学特論III(学校経営・評価)		1後 講義	2	
	発達支援教育特論I(発達障害)		1後 講義	2	
	発達支援教育特論II(障害児教育)		1後 講義	2	
	発達支援教育特論III(学校保健・学校看護)		1後 講義	2	
	健康教育特論(運動と栄養)		2後 講義	2	
	教育実践学演習	PICK UP	2前 演習	2	
演習及び特別研究	演習I		1前 演習	2	8科目以上
	演習II		1後 演習	2	
	特別研究I		2前 演習	2	
	特別研究II		2後 演習	2	

必修

美しく生きるための教育学総合特論

この科目は、本学の建学の精神「徳をのぼす」「知をみかく」「美をつくる」と教育学の関わりを追究する必修科目である。教育学、教育内容・方法論、道徳教育、心理学、図画工作科教育法の各専門領域のそれぞれの立場から、教育に携わる者としての理想や目標となる「美しく豊かな生き方」とはどのようなものであるかを考察する。

教育課題実践演習

現代の教育課題やニーズについて、自身の学校現場、諸機関による調査、時事ニュース等を手掛かりに、その課題の所在や要因、背景等を多様な視点で受講者自身が分析、考察し、発表する。その後、受講者の司会によって話し合い、実践経験からの意見や理論的側面からの意見、国際的な動きや地域の状況など、多様な視点から議論し、担当教員が総括する。取り上げるのは「教育課程の編成」「学級経営・学校経営」「いじめの問題」「不登校」「発達障害・特別支援教育」「学校保健・学校看護・健康教育」に関する課題で、専門科目の「教育実践学特論I~III」や「発達支援教育特論I~III」の導入ともなる内容である。

特色ある科目

地域課題実践演習

本授業の目的は、地域社会と学校教育の関係性について実践的理解をした上で、地域と有機的に機能し合う教育を実践できる能力を身に付けることである。地元地域の教育課題については教育委員会や指導主事等を招いて、また教育研究機関への訪問調査も予定している。保護者からの意見はPTAの協力、少年の健全育成から見た課題や福祉からの視点は健全育成関係機関や福祉機関等の協力も得て、具体的な教育課題の実態を把握する。そのうえで課題解決のためのプレゼンテーションと議論・検討を行う、学生主体のアクション・リサーチ型演習授業である。

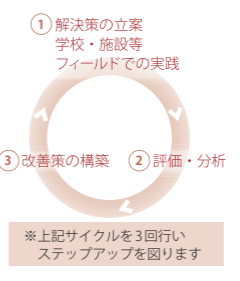
臨床・教育相談実践演習I(生徒指導) 臨床・教育相談実践演習II(カウンセリング)

臨床・教育相談分野に特化して、さらに深くかつ実践的に学修する。生徒指導・カウンセリングについて実践事例を取り上げながら理論等との関連を踏まえた議論を深め、児童生徒や保護者と信頼関係を築き、問題解決に向けて協働的に試行錯誤できる実践力を身につける。

PICK UP

教育実践学演習 発達支援教育実践演習

「教育実践学特論I~III」、「発達支援教育特論I~III」、「健康教育特論(運動と栄養)」を学んだ上で、自分が解決したいと考える課題に対して学生それぞれが3回の実践にチャレンジ。解決策の立案からその評価・分析、さらなる改善策の構築について教員と同時に受講している仲間たちとも経験交流、意見交換することで新たな可能性が拓ける。



■ 修了要件および履修方法



専門基礎科目から14単位以上、専門科目から8単位以上、演習及び特別研究から8単位以上を修得し、加えて教育学研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格することによって学位を取得することができます。

院生メッセージ Graduate Student



仕事と研究を両立しながら、学んだことを現場で実践

専門職である養護教諭として働きながら、もっと色々なことを知っていればとか、子どもたちが自分の健康に興味を持ってくれるような指導はどのようにしたらいいのだろうか、様々な課題や疑問を感じるようになり、もっと学びたいと大学院への進学を決めました。現在は「保健教育の質的改善」について研究をしています。文献や実践を調べていくと、奥が深く、様々な発見があります。仕事と大学院の両立は大変ですが、温かい先生方や大学院の仲間を支えられて過ごすことができている。働きながら通えることで、大学院で学んだことをすぐに学校の子どもたちに伝えることができず。子どもたちが、「身体のことを知って楽しい!」「身体を大切にしよう!」と思ってくれているような関わりができる養護教諭をめざします。

時下 なつ美さん
 福井県公立小学校養護教諭
 畿央大学教育学部現代教育学科卒業
 教育学研究科修士課程在籍

教員プロフィール



前平 泰志 教育学研究科長・教授
修士(教育学)京都大学、京都大学名誉教授

ユネスコ教育研究所所員、京都大学教育学部助手、甲南女子大学講師、助教授、教授を経て、京都大学助教授、教授、大学院教育学研究科長、教育学部部長を歴任。平成27年度より畿央大学教育学部部長。専門は生涯教育学。教育をマクロな視点で捉える研究からシフトし、現在はミクロな視点に立って、地域に足を運びながら、教育の新たな理論と実践を構築するための研究に取り組んでいる。

- <ローカルな知>の研究
○教育における時・空間の研究
○自己教育の研究



島 恒生 研究科主任・教授
修士(教育学)兵庫教育大学

小学校教諭、奈良県立教育研究所教科指導副部長を経て、畿央大学教育学部教授。文部科学省「小学校学習指導要領解説道徳編作成協力者」「中央教育審議会初等教育分科会道徳教育専門部会委員」「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議委員」を務める。道徳教育、生徒指導、学級経営等についての執筆多数。全国教育委員会や学校での研修会講師として活躍している。

- 道徳教育や道徳科の時間の指導の研究
○道徳実践としての特別活動の意義
○道徳教育と生徒指導、人権教育等との関連



小野 尚香 教授
博士(医学)大阪大学

近畿福祉大学助教授、教授、神戸親和女子大学教授を経て、畿央大学教育学部教授。2004年より大阪大学医学部、続いて大阪大学大学院医学系研究科招聘教授を併任。特別支援教育に関する執筆、翻訳多数。公衆衛生学ならびに医学概論の視点を基に、発達に課題のある子どもに対する支援について、教育・医学・保健・福祉を横断する日瑞比較研究に取り組んでいる。

- 医学理論と教育・福祉システムとの相互作用についての研究
○小児の発達と特別支援教育に関わる日瑞比較研究
○幼児と保護者支援に関するメソ・システムの研究



高田 恵美子 教授
修士(文学)奈良女子大学

小学校養護教諭、奈良県教育委員会事務局保健体育課指導主事、関西女子短期大学専任講師、准教授を経て畿央大学教育学部准教授、教授。2011年、養護教諭制度70周年記念学校保健功労者文部科学大臣表彰受賞。養護実践や健康教育についての執筆多数。最近ではソロモン諸島国をフィールドに養護教諭の特性を活かした健康支援や指導教材の開発についても取り組んでいる。

- 養護教諭の職務実践に関する研究
○開発途上国における日本型健康教育プログラムの検証
○プレゼンテーションソフトを使用した健康教育指導教材の開発



冬木 正彦 教授
博士(理学)京都大学、関西大学名誉教授

関西大学工学部専任講師、助教授、教授を経て関西大学大学院で研究指導を担当。授業と学習を統合的に支援するソフトウェアCEAS(シーズ)の開発を行い平成16年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援事業の推進責任者を務めた。CEASは関西大学、畿央大学等で全学利用されている。大学全体の教育支援、専門英語教育の普及促進についても業績を上げている。現在、冬木学園理事長、畿央大学学長。

- クラウド環境におけるICT活用能力育成教育
○「反転授業」の実施方式と科目特性の関連
○校務支援システムのあり方と有効性の検討



西端 律子 教授
博士(人間科学)大阪大学

大阪府立工業高等専門学校助手、専任講師、大阪大学人間科学部助手、大阪大学大学院助教を経て畿央大学教育学部准教授、教授。情報コミュニケーション学会会長、教育システム情報学会役員を兼任。文部科学省「教育の情報化の手引制作検討委員」を務める。高等学校共通教科「社会と情報」「情報の科学」教科書やメディアリテラシーに関する執筆多数。総務省「若年層のためのプログラミング教育の普及推進」平成29年度採択奈良地区代表。

- タブレットPCを利用した授業実践の開発と蓄積
○特別支援教育におけるデジタルコンテンツの開発と共有
○小学校におけるプログラミング教育



石川 裕之 准教授
博士(教育学)京都大学

京都大学高等教育研究開発推進センター特定助教を経て畿央大学教育学部助教、准教授。その間、国立教育政策研究所研究協力委員、国際日本文化研究センター共同研究員などを兼任。平成24年日本比較教育学会平塚賞受賞。韓国をフィールドに、才能教育や高等教育に関する研究、子育て支援制度に関する研究など幅広く取り組んでいる。

- 東アジア諸国における早期英語教育の現状と課題
○開発途上国における教育援助の実態とNGOの役割
○日本における外国人児童・生徒のアイデンティティと学校教育



大久保 賢一 准教授
博士(心身障害学)筑波大学

筑波大学大学院博士課程において発達障害支援の臨床活動や研究に携わり、2010年に学位を取得。2008年から14年まで北海道教育大学准教授として特別支援教育に関わる科目の教鞭を執り、2014年4月から現職へ。専門は応用行動分析学、行動コンサルテーション。最近では学校支援(教員研修)や福祉事業所における強度行動障害支援にも精力的に取り組んでいる。

- 行動問題に関わる教員研修プログラムの開発
○School-wide Positive Behavior Supportに関する実証的研究
○ダイバシティ教育に関する理論的検討



塩原 佳典 准教授
博士(教育学)京都大学

大学院で日本教育史研究に取り組み、2013年に学位を取得。日本学術振興会特別研究員(PD)、京都外国語大学講師を経て、2018年より現職。信州松本地方を主たるフィールドとし、古文書の蒐集・整理活動に携わっている。近世から近代へと移行する時期に、地域社会の生活・教育文化がいかに変容していったのかを研究課題としている。

- 近世後期の村落社会とイエの再生産
○維新期における脱身分化と近代公教育
○明治初期の地域社会における小学校の創設

入学までの流れ



事前相談について…本大学院の受験を希望される方は、出願手続を行う前に、研究テーマ等について志望する研究領域の指導教員への事前相談を必ず行ってください。希望する研究内容の指導教員が不明な時は、○のついた総合窓口の担当者にご相談ください。

	教員名	修士課程	博士後期課程	メールアドレス	教員紹介
健康科学 研究科	植田 政嗣	生命医科学	生体機能科学	m.ueda@kio.ac.jp	P09
	金内 雅夫	生命医科学	生体機能科学	m.kanauchi@kio.ac.jp	P09
	前原 佳代子	生命医科学	生体機能科学	k.maehara@kio.ac.jp	P09
	乾 富士男	生命医科学	生体機能科学	f.inui@kio.ac.jp	P09
	祐貴 泰子	生命医科学		t.sukezane@kio.ac.jp	P09
	森岡 周	神経リハビリテーション学(認知・行動系)	健康リハビリテーション科学	s.morioka@kio.ac.jp	P09
	松尾 篤	神経リハビリテーション学(社会・コミュニケーション系)	健康リハビリテーション科学	a.matsuo@kio.ac.jp	P09
	信迫 悟志	神経リハビリテーション学(発達・高次機能系)	健康リハビリテーション科学	s.nobusako@kio.ac.jp	P09
	岡田 洋平	運動制御・運動障害学(運動制御系)	健康リハビリテーション科学	y.okada@kio.ac.jp	P09
	冷水 誠	運動制御・運動障害学(心理・学習系)	健康リハビリテーション科学	m.hiyamizu@kio.ac.jp	P09
	大住 倫弘	疼痛リハビリテーション学(臨床系)	健康リハビリテーション科学	m.ohsumi@kio.ac.jp	P09
	前岡 浩	疼痛リハビリテーション学(基礎系)	健康リハビリテーション科学	h.maesaka@kio.ac.jp	P10
	田平 一行	呼吸リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	k.tabira@kio.ac.jp	P10
	宮本 直美	呼吸リハビリテーション学		n.miyamoto@kio.ac.jp	P10
	庄本 康治	物理医学系リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	k.shomoto@kio.ac.jp	P10
	高取 克彦	地域系リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	k.takatori@kio.ac.jp	P10
	今北 英高	運動器リハビリテーション学(筋・神経・Fascia系)	健康リハビリテーション科学	h.imagita@kio.ac.jp	P10
	峯松 亮	運動器リハビリテーション学(骨・関節系)	健康リハビリテーション科学	a.minematsu@kio.ac.jp	P10
	瓜谷 大輔	運動器リハビリテーション学(臨床系)	健康リハビリテーション科学	d.uritani@kio.ac.jp	P10
	福本 貴彦	運動器リハビリテーション学(スポーツ系)		t.fukumoto@kio.ac.jp	P10
	河野 由美	看護関連科学(看護心理学)		y.kono@kio.ac.jp	P10
	秋山 明子	看護関連科学(看護疫学・公衆衛生看護学)		a.akiyama@kio.ac.jp	P11
	堀江 尚子	看護関連科学(看護心理学)		n.horie@kio.ac.jp	P11
	文 鐘馨	看護関連科学(疫学・公衆衛生学)		i.moon@kio.ac.jp	P11
	松本 泉美	看護実践学(地域ヘルスプロモーション科学)		j.matsumoto@kio.ac.jp	P11
	山崎 尚美	看護実践学(高齢者看護学)		n.yamasaki@kio.ac.jp	P11
	山本 裕子	看護実践学(療養支援看護学)		yuko.yamamoto@kio.ac.jp	P11
	廣金 和枝	看護実践学(健康発達支援看護学)		k.hirokane@kio.ac.jp	P11
	小西 洋太郎	食品機能科学	健康生活環境科学	y.konishi@kio.ac.jp	P11
	栢野 新市	食品機能科学	健康生活環境科学	s.kayano@kio.ac.jp	P11
	山本 隆	味覚と食嗜好の科学	生体機能科学	ta.yamamoto@kio.ac.jp	P11
	上地 加容子	味覚と食嗜好の科学		k.ueji@kio.ac.jp	P11
	米田 武志	味覚と食嗜好の科学		t.yoneda@kio.ac.jp	P12
永澤 健	運動・栄養生理学	生体機能科学	t.nagasawa@kio.ac.jp	P12	
村木 悦子	食品栄養科学		e.muraki@kio.ac.jp	P12	
三井田 康記	環境デザイン学		k.miida@kio.ac.jp	P12	
東 実千代	環境デザイン学	健康生活環境科学	m.azuma@kio.ac.jp	P12	
藤井 豊史	環境デザイン学		to.fuji@kio.ac.jp	P12	
西山 紀子	環境デザイン学		n.nishiyama@kio.ac.jp	P12	
李 沅貞	環境デザイン学		w.lee@kio.ac.jp	P12	
清水 裕子	環境デザイン学		h.shimizu@kio.ac.jp	P12	
冬木 正紀	次世代型生活支援技術学	次世代型生活支援技術学	mn.fuyuki@kio.ac.jp	P12	
教育学 研究科	前平 泰志	生涯教育学		y.maehira@kio.ac.jp	P17
	島 恒生	道徳教育・特別活動		t.shima@kio.ac.jp	P17
	小野 尚香	特別支援教育		n.ono@kio.ac.jp	P17
	高田 恵美子	養護教育		e.takata@kio.ac.jp	P17
	冬木 正彦	教育の情報化		m.fuyuki@kio.ac.jp	P17
	西端 律子	教育工学・教育方法		r.nishibata@kio.ac.jp	P17
	石川 裕之	比較教育学		h.shikawa@kio.ac.jp	P17
	大久保 賢一	特別支援教育		k.ohkubo@kio.ac.jp	P17
塩原 佳典	教育史学		y.shiohara@kio.ac.jp	P17	

入学資格審査について

【対象者】

大学院入学資格を有しない者で、2020年4月1日までに修士課程は22歳以上に、博士後期課程は24歳に達する者。(修士課程はP19出願資格9、博士後期課程はP20出願資格6を参照)

【申請受付期間(消印有効)】

- 1期 2019年8月1日(木)~2019年8月23日(金)
2期 2019年12月2日(月)~2019年12月20日(金)

【審査方法】

- ①入学資格審査申請書(本学所定様式・本学ホームページからダウンロード)
②出身校の成績証明書および卒業(修了)証明書
③社会人選抜での出願を希望する場合は、社会における実務経験の期間および内容を証明できるものや、取得した資格の証明書(コピー)を添付すること。

【審査方法】

申請書類により行う。

【申請書類送付先】

〒635-0832
奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2
畿央大学入学センター
※封筒の表面に「大学院入学資格審査申請書在中」と朱書きすること。

【審査結果】

審査結果は、各入試日程の出願開始日までに申請者宛に送付する。ただし有効期間は交付日より2年間とする。

健康科学研究科・教育学研究科 修士課程 募集要項

入学定員・募集人員・修業年限

研究科	専攻	入学定員	1期	2期	修業年限
健康科学	健康科学	20名	14名	6名	2年
教育学	教育実践学	10名	7名	3名	2年

入試日程

試験区分	試験会場	出願期間(消印有効)	試験日	合格発表日
1期	本学	2019年 9月2日(月)~9月13日(金)	2019年 9月22日(日)	2019年 10月1日(火)
2期	本学	2020年 1月9日(木)~1月24日(金)	2020年 2月2日(日)	2020年 2月9日(日)

出願手続を行う前に、指導教員への事前相談を必ず行ってください(P.18参照)。

出願資格

【一般選抜試験】

次の1~9のいずれかに該当する者

1. 大学を卒業した者及び2020年3月卒業見込みの者
2. 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者
3. 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び2020年3月修了見込みの者
4. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
5. 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了した者又は2020年3月までに修了見込みの者
6. 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
7. 文部科学大臣の指定した者
8. 学校教育法第102条の規定により大学院に入学した者で、本大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
9. 2020年4月1日現在満22歳以上の者で、本大学院において個別の入学資格審査(P.18参照)により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

【社会人選抜試験】

一般選抜試験の出願資格1~9のいずれかに該当し、2020年4月1日現在満23歳以上で、入学時において医療・保健・福祉、教育研究機関、官公庁、企業等で2年以上の実務経験を有する者
※本研究科に関連する国家資格や免許等を取っている者は、これを優先する。

注)出願資格9による出願者は、事前に入学資格審査が必要です。
(P18「入学資格審査について」参照)

【学内推薦試験】

畿央大学を2020年3月に卒業見込みの者で、卒業研究指導教員の推薦書が得られる者

選抜方法

筆記試験、面接および書類審査により入学者を選抜します

選抜種別	試験内容	配点
一般選抜	英語*	100点
	専門科目(研究領域に関する筆記試験)	200点
	面接(個人面接形式)	段階評価
	研究計画書その他の提出書類	段階評価
社会人選抜	小論文(研究領域に関する内容)	200点
	面接(個人面接形式)	段階評価
	研究計画書その他の提出書類	段階評価
学内推薦	専門科目(研究領域に関する筆記試験)	200点
	面接(個人面接形式)	段階評価
	研究計画書その他の提出書類	段階評価

※ 英語は英和辞書1冊の持込可(電子辞書は不可)

試験時間割

一般選抜試験 集合時間12:50

英 語	13:00~14:00(60分)
専門科目	14:20~15:40(80分)
面 接	15:50~順次

社会人選抜試験 集合時間 14:10

小 論 文	14:20~15:40(80分)
面 接	15:50~順次

学内推薦試験 集合時間 14:10

専門科目	14:20~15:40(80分)
面 接	15:50~順次

面接の順番により、待機時間が生じる場合があります。

出願書類等

1. 入学志願票(本学所定用紙)
2. 成績証明書・卒業(見込)証明書
出願資格を満たす大学等の成績証明書・卒業(見込)証明書
※出願資格9に該当する者、もしくは最終学歴校以外で国家資格、免許等を取った者は、上記に加えて資格、免許等を取った教育機関(短期大学・専門学校・各種学校等)の成績証明書・卒業(見込)証明書も提出すること。
3. 志望理由書(800字程度、書式自由)
4. 研究計画書(1000字程度、書式自由)または卒業論文(これに準ずる研究報告書・論文等の写し)
5. 卒業研究指導教員の推薦書(学内推薦試験のみ)
6. 業績調書(社会人選抜試験のみ、書式自由。任意提出)

健康科学研究科 博士後期課程 募集要項

入学定員・募集人員・修業年限

研究分野	入学定員	1期	2期	修業年限
健康生命科学 健康支援科学	5名	3名	2名	3年

入試日程

試験区分	試験会場	出願期間(消印有効)	試験日	合格発表日
1期	本学	2019年 9月2日(月)~9月13日(金)	2019年 9月22日(日)	2019年 10月1日(火)
2期	本学	2020年 1月9日(木)~1月24日(金)	2020年 2月2日(日)	2020年 2月9日(日)

出願手続を行う前に、指導教員への事前相談を必ず行ってください(P.18参照)。

出願資格

【一般選抜試験】

次の1~6のいずれかに該当する者

1. 修士の学位や、専門職学位を有する者、または2020年3月までに取得見込みの者
2. 外国において修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者、または2020年3月までに授与される見込みの者
3. 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者、または2020年3月までに授与される見込みの者
4. 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者、または2020年3月までに授与される見込みの者
5. 文部科学大臣の指定した者
6. 2020年4月1日現在満24歳以上の者で、本大学院において個別の入学審査(P.18参照)により、修士の学位を有するものと同等以上の学力があると認めた者

【社会人選抜試験】

一般選抜試験の出願資格1~6のいずれかに該当し、2020年4月1日現在26歳以上で、入学時において医療・保健・福祉、教育研究機関、官公庁、企業等で2年以上の実務経験を有する者

注)出願資格6による出願者は、事前に入学資格審査が必要です。
(P18「入学資格審査について」参照)

【学内推薦試験】

畿央大学健康科学研究科修士課程を2020年3月に修了見込みの者で、指導教員の推薦書が得られる者

選抜方法

筆記試験、面接および書類審査により入学者を選抜します

選抜種別	試験内容	配点
一般選抜	英語*	100点
	専門科目(研究領域に関する筆記試験)**2	200点
	面接(個人面接形式)	段階評価
	研究計画書その他の提出書類	段階評価
社会人選抜 学内推薦	英語*	100点
	小論文(研究領域に関する内容)**2	200点
	面接(個人面接形式)	段階評価
	研究計画書その他の提出書類	段階評価

※1 英語は英和辞書1冊の持込可(電子辞書は不可)

※2 専門科目および小論文では英語の出題を含む場合があります(辞書持込不可)。

試験時間割

<共通> 集合時間12:50

英 語	13:00~14:00(60分)
専門科目または小論文	14:20~15:40(80分)
面 接	15:50~順次

面接の順番により、待機時間が生じる場合があります。

出願書類等

1. 入学志願票(本学所定用紙)
2. 出身大学院等の成績証明書
3. 出身大学院等の修了(見込)証明書または学位授与証(本学研究科修士課程出身者は不要)
4. 研究計画概要および研究計画書(3000字程度、書式自由)
5. 修士論文等2部
・ 出身大学院に提出した修士学位論文の写し(本学研究科修士課程出身者は不要)
・ 修士学位論文提出以後の研究業績を有する者は業績一覧および主たる論文の写し
・ 修士の学位を有しない者は、業績一覧および主たる論文の写し
6. 研究科指導教員の推薦書(学内推薦試験のみ)



働きながら通える「畿央大学大学院」のヒミツって?

大学院の学びのシステムを紹介する1分間ムービーを公式YouTubeチャンネルで配信中です。



1分でわかる畿央大学

出願共通事項

試験会場

畿央大学(奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2)

入学検定料

各日程 35,000円

出願手続・方法

指導教員への**事前相談(P.18参照)**を必ず行った上で出願書類を一括取り揃え、入学検定料を納付の上、本学所定の大学院入試出願用封筒を使用し、必ず簡易書留速達にて郵送してください(締切日消印有効)。

出願上の注意

1. いったん提出された出願書類および納付された入学検定料は、いかなる理由でも返還しません。
2. 受験票は、出願書類受付後に速達で郵送します。万一、試験実施日の3日前までに届かない場合は、入学センターへお問い合わせください。(0745-54-1603)

受験上の注意

1. 試験会場の下見は、試験前日の午後(13:00～17:00)に可能ですが、試験室に入ることはできません。
2. 試験当日は集合時間の1時間前から試験室に入ることができます。遅刻は試験開始後30分までは認めますが、30分を超えた場合は受験できません。

合格発表

1. 合否結果は合格・不合格ともに合格発表日の前日に本人宛に速達郵便で発送します。合否に関する電話等による問い合わせには一切応じられません。
2. 合格者には合格通知書と同時に入学手続関係書類を郵送します。
3. 欠席・途中放棄は「不合格」として判定・通知します。

入学手続

合格者は、合格通知書に同封する入学手続要項を熟読の上、入学手続を行ってください。入学手続期間内に手続書類の提出および納付金の振込など所定の手続をしなかった場合は、入学の意志がないものとみなし、入学資格を取り消します。

試験区分	試験日	合格発表日	第1次入学手続締切日	第2次入学手続締切日
1期	2019年9月22日(日)	2019年10月1日(火)	2019年10月21日(月)	2019年11月5日(火)
2期	2020年2月2日(日)	2020年2月9日(日)	2020年2月27日(木)	2020年3月13日(金)

入学手続内容

第1次入学手続(入学申込金の納付)

第1次入学手続締切日までに入学申込金として入学金相当額(190,000円)を金融機関で振込んでください。振込依頼書は合格通知書に同封します。

第2次入学手続(入学手続書類の提出および前期学納金の納付)

第2次入学手続締切日までに前期学納金を金融機関で振込み、入学手続書類を郵送してください。入学手続完了後、すでに納付されている入学申込金は入学金として取り扱います。なお、第1次入学手続を完了していない場合、第2次入学手続を行うことはできません。

入学手続に必要な納付金

	第1次入学手続納付金	第2次入学手続納付金(前期学納金)				入学手続に必要な金額(合計)
	入学申込金	授業料	教育充実費	同窓会費	小計	
健康科学研究科(修士課程・博士後期課程)	190,000	250,000	125,000	16,000	391,000	581,000
教育学研究科(修士課程)	190,000	250,000	50,000	16,000	316,000	506,000

※ 畿央大学卒業(見込)生は修士課程および博士後期課程の入学申込金および同窓会費を免除します。また本学大学院修士課程修了(見込)者は博士後期課程の入学申込金および同窓会費を免除します。

2020年度学生納付金

	入学申込金	授業料	教育充実費	同窓会費	初年度納付金(合計)
健康科学研究科(修士課程・博士後期課程)	190,000	500,000	250,000	16,000	956,000
教育学研究科(修士課程)	190,000	500,000	100,000	16,000	806,000

※1 入学金、同窓会費は入学初年度のみ徴収します。
 ※2 初年度納付金から入学手続に必要な金額を差し引いた残額は2020年9月に徴収します。

入学辞退による納付金一部返還制度について

入学手続時納付金を全額納付し入学手続を完了後(第2次入学手続完了後)、やむをえない理由により入学を辞退する場合、2020年3月30日(月)17:00までに「入学辞退並びに納付金一部返還願」を提出した方に限り、入学申込金を除く入学手続時納付金を返還します。

大学院特別奨学金制度について

この制度は成績優秀な学生を応援するために設けられています。1回生については入学試験の成績上位者が、また2回生と博士後期課程の3回生は申請者の内から選ばれ、年間30～37.5万円が給付されます(後期学納金を徴収する際に減免)。修士課程は成績上位10%程度、博士後期課程は成績上位50%程度の人数が対象となりますが、毎年審査を行い、同じ人が続いて受給することも可能です(P.2参照)。

長期履修学生制度のご案内(修士課程のみ)

定まった職業を有する方または家事・育児または介護等を行う方を対象として、計画的な長期在学・履修により就学の便宜と授業料の軽減を図る「長期履修学生制度」を設けています。希望される方は入学手続き時に申請が必要となります。また、入学後に長期履修学生制度に変更することも可能です(P.2参照)。

注意事項

次のいずれかに該当する場合は合格を取り消します。

1. 虚偽・不正の記載または出願資格を満たさない事実が判明した場合。
2. 2020年3月大学等を卒業見込みの者が卒業できなかった場合(修士課程)。
3. 2020年3月に修士の学位を取得見込みの者が取得できなかった場合(博士後期課程)。

その他

本学は学内外を問わず、全面禁煙を実施しています。

Q & A

【入試】

Q 大学の管理栄養士養成課程を卒業して病院に2年間勤めたあと、子育てのため6年前に退職しました。健康科学研究科修士課程社会人選抜試験の受験資格はありますか？

A 大学を卒業後、医療機関に2年間勤めているので社会人選抜試験の受験資格対象となります。また管理栄養士は合否判定の際に優先資格となります。

Q 2020年3月に3年制の専門学校を卒業予定です。理学療法士として就職も内定していますが、修士課程の受験資格はありますか？

A 修業年限が3年の専修学校を修了した方については、事前に本大学院において行う個別の入学資格審査が必要です。詳しくはP18を参照してください。なお、2020年4月1日現在で22歳未満の方は、修士課程の受験資格が得られませんので注意してください。

Q 外国籍で入学を希望しています。留学生入試等の制度はありますか？

A 外国人特別入試や留学生入試などは実施しませんが、申請によって英語、小論文等の入試において一部英語による解答を認める場合があります。但し、本学の授業はすべて日本語で行われますので、授業をうけるのにさしつかえない程度の日本語能力を有する必要があります。出願の際に「日本語能力試験」(日本国際教育支援協会)または「日本留学試験『日本語』」(日本学生支援機構)を必ず提出してください。

Q 社会人選抜の小論文について教えてください。

A 社会人選抜試験の小論文は80分1000字程度で、志望する研究領域に関するテーマが出題されます。概論などでベースとなる知識を身につけ、さらに自分の視点をいれながら論述する練習をしておくといでしょう。

Q 面接の形式について教えてください。

A 面接試験は受験者1名に対して面接委員が2、3名の個人面接形式です。筆記試験終了後、志望動機や目標、研究の目的や方法などについて質問します。

【学生生活】

Q 研究にも費用がかかると思いますが、自分で負担するのですか？

A 本学研究科では院生一人当たり最大で修士課程は年間10～20万円、博士後期課程は年間20万円の院生実習費を用意しています。院生実習費は担当教員の指導のもとに、研究に関係のある消耗品費、機器備品費、図書・図書資料費、印刷費、通信費、発表を伴う学会参加費、修繕費及び謝金等に使用することができます。

Q 遠方から入学したいのですが、畿央大学に行く必要はどれくらいありますか？

A 修士課程の1年次に配当されている科目や博士後期課程の共通科目については、一部を除きインターネットによるライブ授業対応となっていますので、自宅や職場での受講が可能です。その他の科目は担当教員と打ち合わせを行い、必要に応じて集中講義等で行うなど、遠方からの入学者に配慮しています。ただし、本学の実験装置を用いた実験研究を行う場合や中間報告会、論文審査の際などには大学に来ていただく必要があります。

Q 仕事で授業と同時に配信されるライブ授業を受けることができなかったときはどうしたらよいですか？

A ライブ授業の内容を記録してオンデマンド教材として配信を行っています。ライブ授業に参加できなかったときは、このオンデマンド教材で確認することができます。

Q 看護師として働きながらスキルアップを考えています。専門学校卒業で英語に少し不安がありますが大丈夫ですか？

A 本学大学院は、社会人がスキルアップをめざして働きながら学べる環境を整え、高度な実践力を持って社会に貢献できる専門職業人の育成を使命の一つとしています。修士課程の社会人入試では英語の試験を課していませんが、研究遂行の基礎となりますので入学前、入学後を通じて計画的に英語の学習を進められることを期待しています。

■ 1科目から大学院の授業を受講することも可能です

興味のある授業科目を1科目から受講することができます。受講するだけなら聴講生、単位修得を目的とするなら科目等履修生として申し込んでください。選考は原則書類審査ですが、面接を行う場合があります。ライブ授業を実施する科目は自宅からも受講できます。また、科目等履修生や聴講生は本学の施設を利用することができます。

選考手数料 10,000円(初回のみ必要)

申込金 20,000円(初回のみ必要)

授業料 1科目につき 科目等履修 30,000円
聴講 20,000円

出願期間 前期授業 3月1日～10日
後期授業 8月21日～30日

※ 本学の休業日は出願期間に含まれません。
 ※ 一部、科目等履修や聴講ができない科目もあります。
 ※ 畿央大学卒業生には割引があります。詳しくはお問い合わせください。

問い合わせ先 畿央大学学生支援センター TEL. 0745-54-1601